

MS・キャラクター・ヒストリー —— 全ガンダムシリーズの完全記録

THE OFFICIAL

週刊 ガンダム パーフェクト・ファイル

GUNDAM

PERFECT FILE

定価 590 円
(税込)
2012/7/31

43

MEDIANIC FILE

ギラ・ズール／
『袖付き』のMS①／
マゼラン／
サラミス／
カオスガンダム／
プロトセイバーガンダム

PERSONAL PROFILE

ガランシェール隊隊員／
ルナツの地球連邦軍士官／
アスラン・ザラ／
スティング・オークレー&
アウル・ニード

WORLD GUIDE

バラオ攻略戦／
ヘブンスベース攻略作戦「ラグナロク」／
ルナツ

U.C. TIMELINE

フル・フロンタルとの接見

GLOSSARY

『機動戦士Zガンダム』用語集

GUNDAM TOPICS

相模屋食料 MS-06 ザクとうふ



ンシェール隊隊員



ルナツ

今週のMS①
AMS-129 GEARA-ZULU

第43号 目次



パーソナルプロフィール

ワールドガイド

宇宙世紀年表

ガンダム用語辞典ガンダムトビックス

AMS-129

GEARA-ZULU

ギラ・ズール





Illustration by TAKESHI MORITA Color by TAKAKO SUZUKI Special Effect by FUMIE MAEBAYASHI Background by ATELIER MUSA

MS of ARMHOLE STRIPE ①

『袖付き』のMS①

AMX-006

ガザD

GAZA-D



基本構造

旧ネオ・ジオンで建造された機体をベースにしつつ、各部機構を改修することで整備性の向上を目指している。そのため基本性能も強化されたようだ。

かつての「ネオ・ジオン」から継承された可変機

武装

機体ジェネレーターに直結した大型ビーム・ライフル（ナックル・バスター）をはじめミサイルや格闘用装備を搭載するなど、豊富な武装を有している。

武装

主兵装の「ランゲ・ブルーノ砲」はビーム兵器ではなく、実体弾を発射する長距離兵器である。そのため弾速や命中精度はやや劣るが、破壊力は問題ない。

変形機構

上半身を屈曲させることでMA形態となる簡易変形機構を搭載。これはベース機から受け継がれた機構であり、改修後もそのまま活かされたようだ。

■ SPEC -AMX-006 GAZA-D-

全高	——（頭頂高 17.0m）
重量	28.7t
ジェネレーター出力	2,140kW
スラスター推力	98,200kg
装甲材質	ガンダリウム合金
武装	ナックル・バスター／ビーム砲×2 2／ビーム・サーベル×2 他
所属	ネオ・ジオン（『袖付き』）
搭乗者	——

■ SPEC -AMS-119 GEAR-DOGA HEAVY ARMED TYPE-

全高	20.0m
重量	28.0t（全備重量 62.1t）
ジェネレーター出力	2,160kW
スラスター推力	75,200kg
装甲材質	チタン合金セラミック複合材
武装	ランゲ・ブルーノ砲
所属	ネオ・ジオン（『袖付き』）
搭乗者	——

■ COMPARISON CHART



■ COLOR

AMX-006 GAZA-D



AMS-119 GEAR-DOGA HEAVY ARMED TYPE



AMS-119

ギラ・ドーガ
重武装仕様

GEAR-DOGA HEAVY ARMED TYPE



外装タンク

作戦行動時間の延長を図るべく大型プロペラント・タンクを接続。さらに耐弾性を向上させるため、タンク側面に装甲板を追加している。

基本構造

ギラ・ドーガに重装型バックパックとランゲ・ブルーノ砲、放熱板を兼ねたスタビライザーを追加することで、長距離砲撃戦に対応。部隊後方からの支援砲撃に用いられた。

新たな力を得た重装型MS

図らずも組織の内情を反映させることとなった機体編制

U.C.0093に勃発した「シャアの反乱」から数年後、再び活動を活発化させたネオ・ジオン残党（『袖付き』）だが、勢力としての規模とは裏腹に、完全な一枚岩の組織というわけではなかった。「赤い彗星の再来」と呼ばれるフル・フロンタルが発揮する圧倒的なカリスマ性の下に結成された組織は、地球上に潜伏するジオン・シンバを含めると、かつてシャア・アズナブルが率いたネオ・ジオンに匹敵するほどの規模に達した。とはいえその内情はシャアのネオ・ジオンを母体しつつ、旧ネオ・ジオン（ハマーン・カーンが率いたアクシズ勢力）や旧公国軍

残党を取り込んだものであり、古参兵や新世代の兵が入り乱れる部隊となったのである。それは『袖付き』が保有するMSにも反映されている。シナンジュやクシャトリヤといった新鋭機がある一方、実働部隊の大多数はシャアのネオ・ジオンや旧ネオ・ジオンから継承・改修した機体で占められていたのだ。そのため機体の整備性や補給体制が煩雑となり、機体間の性能差の拡大から連携行動にも支障をきたす場合があったようだ。それでも組織に参加した者たちは「ジオン」と「反連邦」という共通認識の下、戦いを止めようとしなかったのである。

関連ファイル

MSN-06S シナンジュ	UC-01-12
AMS-129 ギラ・ズール	UC-01-14
フル・フロンタル	UC-02-13
パラオ攻略戦	UC-03-03
資源衛星パラオの戦い	UC-03-08
ネオ・ジオン（『袖付き』）	UC-03-13
「ラプラスの箱」を巡る紛争	UC-03-17

FILE PREVIEW

UC-03-03 パラオ攻略戦



『袖付き』に強奪されたユニコーンガンダムを奪い返すために実施された強襲戦。ロンド・ベル隊とエコーズの協力の下に進められ、敵味方双方に多大な犠牲を強いることになった。

AMX-006

旧ネオ・ジオン勢力から使い続けられた可変MS

『袖付き』が保有する可変MS ガザDは、旧ネオ・ジオン勢力が『袖付き』に合流する際に譲渡されたものと言われる。グリプス戦役で一定の評価を受けたガザCをベースにして発展・改良した機体だけに基本設計は旧型で、本来なら後衛に配備される機体である。事実、『袖付き』でも前線の実働部隊に配備されておらず、資源衛星パラオの防衛任務に回されていた。とはいえ内部機構の見直しや改修によって基本性能は向上しており、機体構造も比較的単純なことから整備性にも優れていたようだ。なにより旧ネオ・ジオンから『袖付き』に合流した兵たちにとっては使い慣れた機体が一番であり、それが本機が運用され続けた要因になったと思われる。



MA形態に変形することでMS形態を上回る機動性を発揮。迫り来るミサイルを回避しながら標的に接近するといった高機動戦を披露している。



主兵装のナックル・バスターはベース機よりも出力が向上しているが、やはり基本設計が古かったらしく、シールドで防御されていた。

■ MS形態



フレーム構造がやや脆弱に見えるが、これはガザCから受け継がれた簡易変形機構の影響と考えられる。とはいえ剛性に問題はなく、実戦にも充分耐えられた。

● MS形態（背面）

背部ジェネレーター・バックが外見上の特徴。この設計により大型ジェネレーターの搭載が可能になった。

■ 武装

ナックル・バスターを中心にビーム／実弾兵器を複数装備しているため、MS戦だけでなく、対艦攻撃や拠点防衛など各種任務に対応可能である。

● ビーム・サーベル

肩部バインダー内に1本ずつ搭載。出力は標準レベルだが使いやすく、格闘戦の主兵装として用いられる。

● ミサイル

こちらもバインダー内に搭載。小型弾頭なので破壊力は低いが、連射や斉射で効果を挙げた。

■ MA形態

腕部を後方に折りたたむと同時に上半身を屈曲させるとMA形態となる。簡単な変形機構ながら、機動性の向上には有効な形態である。

● MA形態①

MS形態での脚部はMA形態に変形することで簡易マニピュレーターとして機能。爪先と踵パーツが大型クローとなる。



● MA形態②

後部下方からMA形態を跳めると、機体各部に設置されたスラスターの推力方向が後方に揃えられているのが見て取れる。

● MA形態③

ジェネレーター・バックに設置されたビーム・ガンとナックル・バスターを用いた一撃離脱がMA形態での基本戦術となる。

AMS-119

改修性の高さを活かし、長距離砲戦仕様となった機体

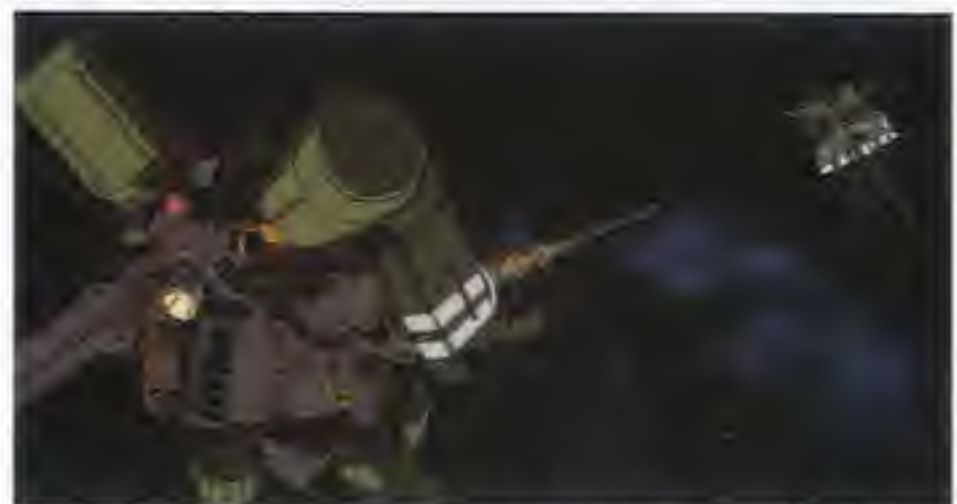
ガザDが旧ネオ・ジオン勢力の機体であるように、ギラ・ドーガはシャアのネオ・ジオンが主力機として用いた機体である。そのため設計年代がガザDよりも新しく、運用面や機体改修の容易さで優っていたらしい。そのためシャアのネオ・ジオン時代からいくつかのバリエーション機が開発されていた。『袖付き』が保有するギラ・ドーガ重装型も、この改修性の容易さから端を発したバリエーション機である。長距離砲撃能力に特化した本機は、専用射撃兵装としての実体弾砲「ランゲ・ブルーノ砲」を装備。さらにマスバランス用のスタビライザーと増加プロペラント・タンクを設置することで、ベース機を上回る大型MSとなった。機体設計を変更することなくこれほどの大型装備が搭載可能なのは、まさに汎用性の高さが為せる技であろう。



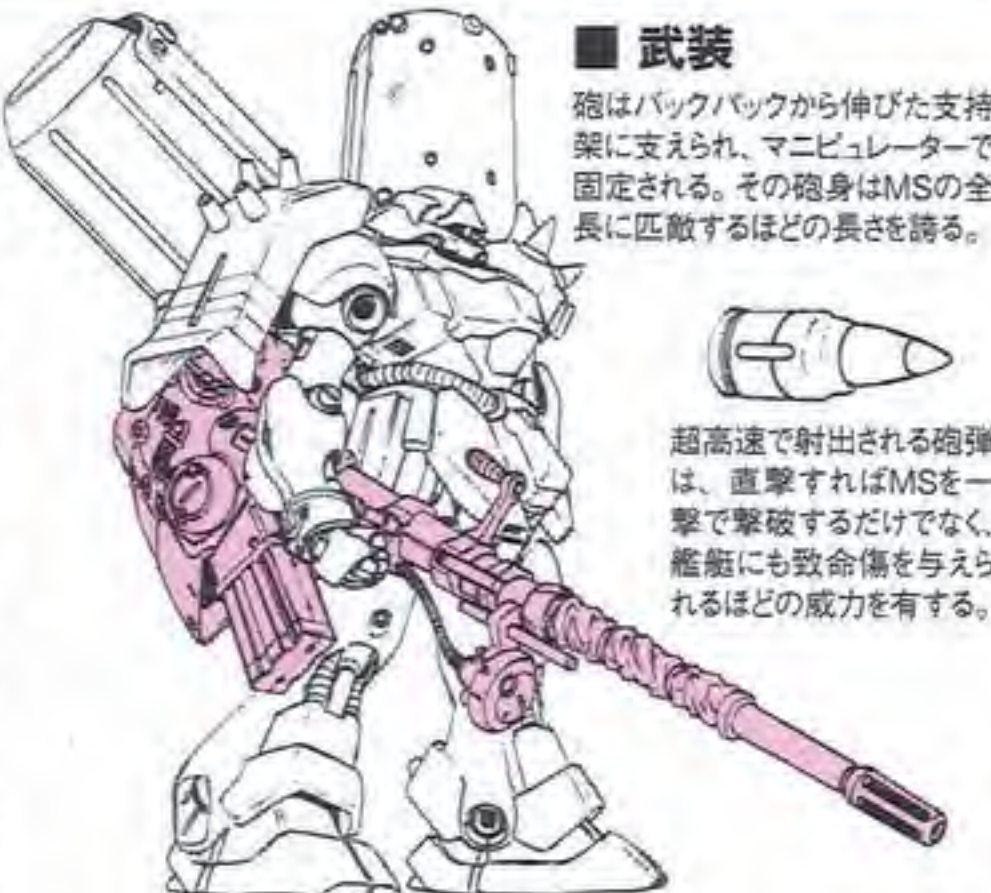
本機はシャア率いるネオ・ジオンの時代から運用されていたが、当時から機体数が少なかったらしく、実戦記録はほとんど残されていない。



『袖付き』でも配備数の少なさは変わらなかったようで、ガンシールドに搭載された数機が確認されるに留まっている。



ネェル・アーガマへの狙撃を試みるギラ・ドーガ重装型。しかし機動性の悪さが災いして、砲撃途中で背後から直撃弾を受けて爆発四散している。

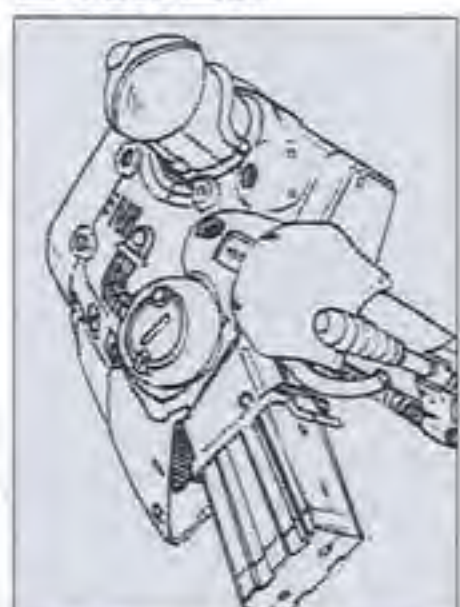


■ 武装

砲はバックパックから伸びた支持架に支えられ、マニピュレーターで固定される。その砲身はMSの全長に匹敵するほどの長さを誇る。

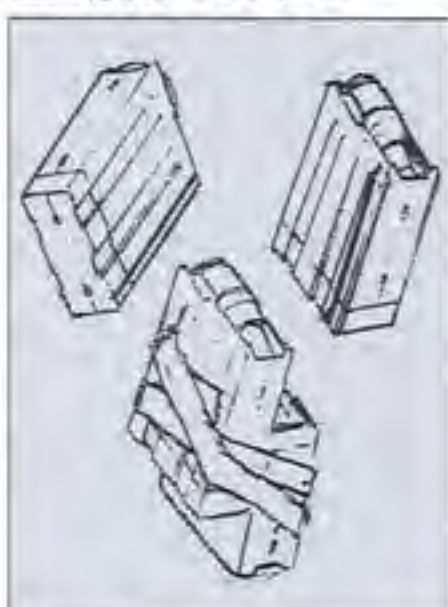
超高速で射出される砲弾は、直撃すればMSを一撃で撃破するだけでなく、艦艇にも致命傷を与えられるほどの威力を有する。

■ 砲身基部



砲身基部には排煙、排熱、砲弾加速用の装置がコンパクトにまとめられ、運用性の向上につながっている。

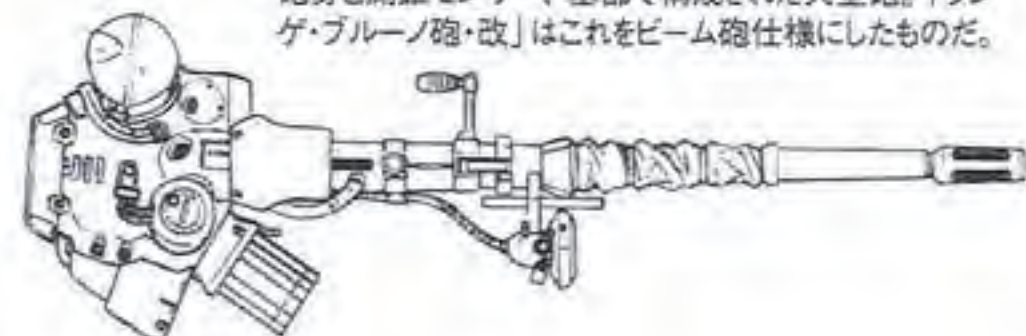
■ 専用マガジン



砲弾は専用マガジンで装填される。時にはマガジン同士を接続して携行数を増やすこともあったようだ。

● ランゲ・ブルーノ砲

砲身と測距センサー、基部で構成された大型砲。「ランゲ・ブルーノ砲・改」はこれをビーム砲仕様にしたものだ。



MORE INFO!

その他のMSと基本能力

『袖付き』が保有するMSはガザDやギラ・ドーガ重装型ばかりではない。複数の勢力から兵力が合流した際に多種多様な機体を持ち込まれ、結果として極めて多様な混成部隊となってしまったのである。以下に挙げた2機はほんの一例であり、近代化改修が施されているとはいえ、これほど能力的に差のある機体で連携行動を実施するのは至難の業と言わざるを得ないのだが、それだけ『袖付き』の台所事情は切迫していたのだろう。

■ AMX-003 ガザC

U.C.0087～0088にかけてアクシズが運用した可変機。作業用MSをベースにしたため1機あたりの能力はやや低いですが、生産性は高い。そのため砲撃戦を中心とする集団戦術で能力を補った。



資源衛星パラオにも数機が配備されており、防衛任務に当たっていた。だがロンド・ベル隊の攻撃によって大半が撃墜されたようだ。

■ MS-21C ドラッツェ

ザクⅡF2型の胴体にガトルのブースターを接続した量産型MS。デラズ・フリートが開発し、デラズ紛争に投入したことで知られる。『袖付き』にも複数機が配備されていた。



デラズ・フリートが運用したものは機体色や武装が異なっている。しかし、二線級の機体であり、性能面では連邦軍の機体に太刀打ちできなかった。



MAGELLAN-CLASS BATTLESHIP

マゼラン

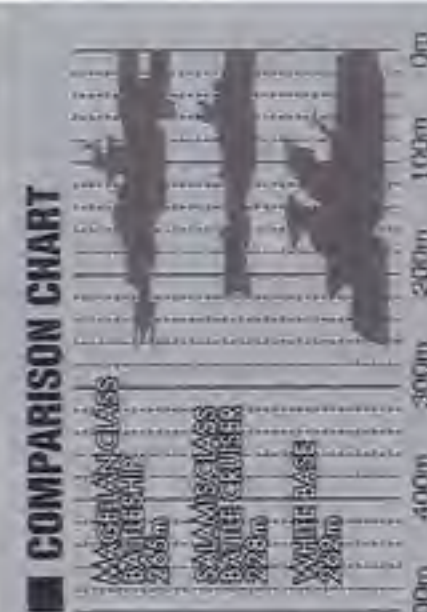
マゼラン級宇宙戦艦

大艦巨砲主義を体現した 地球連邦軍の象徴

武装

2連装メガ粒子砲7基をはじめとする武装の火力は、当時としては最大級のものだった。14基の2連装機銃とミサイル・ランチャーは、ファランクス・システムによって電子制御される。

艦橋
艦体のやや後部寄りという、水上艦に似た構造の艦橋を持つ。また、艦隊旗艦としての運用を想定し、艦橋側面には艦隊に指示を与えるための発光信号弾発射装置が設けられている。



COLOR
MAGELLAN-CLASS BATTLESHIP
GRAY

SALAMIS-CLASS BATTLE CRUISER
LIGHT GRAY DARK RED

SALAMIS-CLASS BATTLE CRUISER

サラミス

サラミス級宇宙巡洋艦



推進システム

主推進機関はミノフスキー・イオネスコ型熱核反応炉を動力とする熱核ロケット・エンジンであり、無補給で各サイド間を航行できるだけの性能を有していた。なお、この推進システムはサラミス級も同様である。

武装

サラミス級は単装メガ粒子砲を主武装としている。ファランクス・システムで制御される2連装機銃と6連装ミサイル・ランチャーは、本来は高い対空性能を発揮するはずであった。

関連ファイル

地球連邦軍の宇宙艦艇	83-01-22
レビル	FG-02-12
ソロモン攻略戦	FG-03-11
ア・バオア・クーの決戦	FG-03-12
U.C.の艦艇	FG-03-40
一週間戦争とルウム戦役	FG-03-42

FILE PREVIEW

FG-03-42 一週間戦争とルウム戦役

ジオン公国は地球連邦へ宣戦布告し、わずか1週間でコロニー落としを敢行。二度目のコロニー落としを阻止すべく動いた連邦軍艦隊だが、ルウム戦役でMSの脅威を知る。



70年代軍備増強計画が生んだ地球連邦軍の主力艦

地球連邦政府の地球圏統治は、強大な軍事力を伴ったものだった。スペースノイドを威嚇し、自治独立運動を抑え付けるに足る軍事力。それは特にU.C.0069のジオン公国の成立によって必要性を増し、U.C.0070年代の軍備増強計画による宇宙軍の拡充を加速させた。マゼラン級宇宙戦艦とサラミス級宇宙巡洋艦は、その計画に基づき建造された地球連邦軍の艦艇である。U.C.0070.09に就役したマゼラン級とサラミス級は、共にミノフスキー・イオネスコ型熱核反応炉を搭載した最初の宇宙艦艇であり、さらには当時注目を集

艦載機

戦術の変化に対応すべく付与された搭載能力

両級は、一年戦争緒戦の敗北を受けた「ピンソン計画」において改裝が施され、MS搭載能力を持つに至った。一般的に、マゼラン級は4機（6、9、12機の説もあり）、サラミス級は4機（0、3、6、8機とも）のMSを搭載できたが、運用能力自体は皆無である。



一年戦争末期の作戦では、RGM-79やRB-79が搭載した艦が多く見られた。しかし、甲板上に配置しただけなど、運用においては不完全と言わざるを得ず、急場凌ぎの対応に過ぎなかった。



■ RGM-79 ジム

■ RB-79 ボール

時代の変遷に 適応していった 地球連邦軍の主力艦

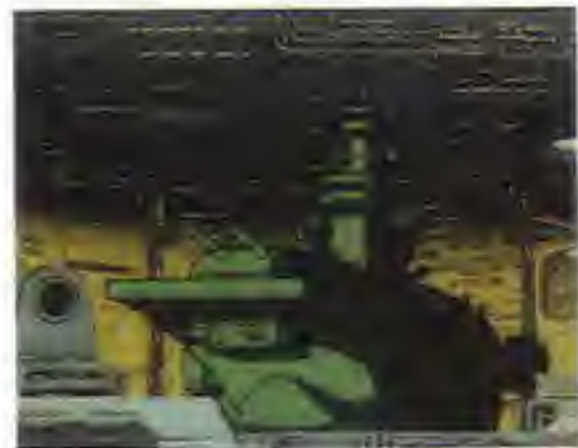
艦橋

艦橋の位置はマゼラン級に比べてより艦尾寄りで、構造物もシンブルな形状である。艦橋側面に配されたアンテナなど、マゼラン級との設計の共通点も見られる。

マゼランの艦体構造／武装

対艦砲撃戦を想定した艦体設計

一年戦争以前の地球連邦軍は、宇宙における艦隊戦を遠距離での砲撃戦と想定していた。そのため、マゼラン級には高い砲撃能力が要求され、ミノフスキー・イオネスコ型熱核反応炉の出力によって稼働する2連装メガ粒子砲を主砲として採用している。また、旧世紀からの水上艦を発展させた艦体構造は、左右面も甲板として活用することで武装の配置と射界の確保を可能としている。なお、アナンケやタイタン、フェーベ、ルザルといった艦が代表的なマゼラン級として知られている。



ソロモン攻略戦で砲撃を行うマゼラン級。メガ粒子砲の多くは艦の正面に対して火力を発揮するように配置されており、大火力の弾幕によって砲撃戦を展開する設計が窺える。



ルナツーに係留中のルナツー方面軍艦隊ワッケイン司令の座乗艦。マゼラン級のカラーリングはグレーが一般的だったが、この艦のようにグリーンで塗装されたものも存在した。



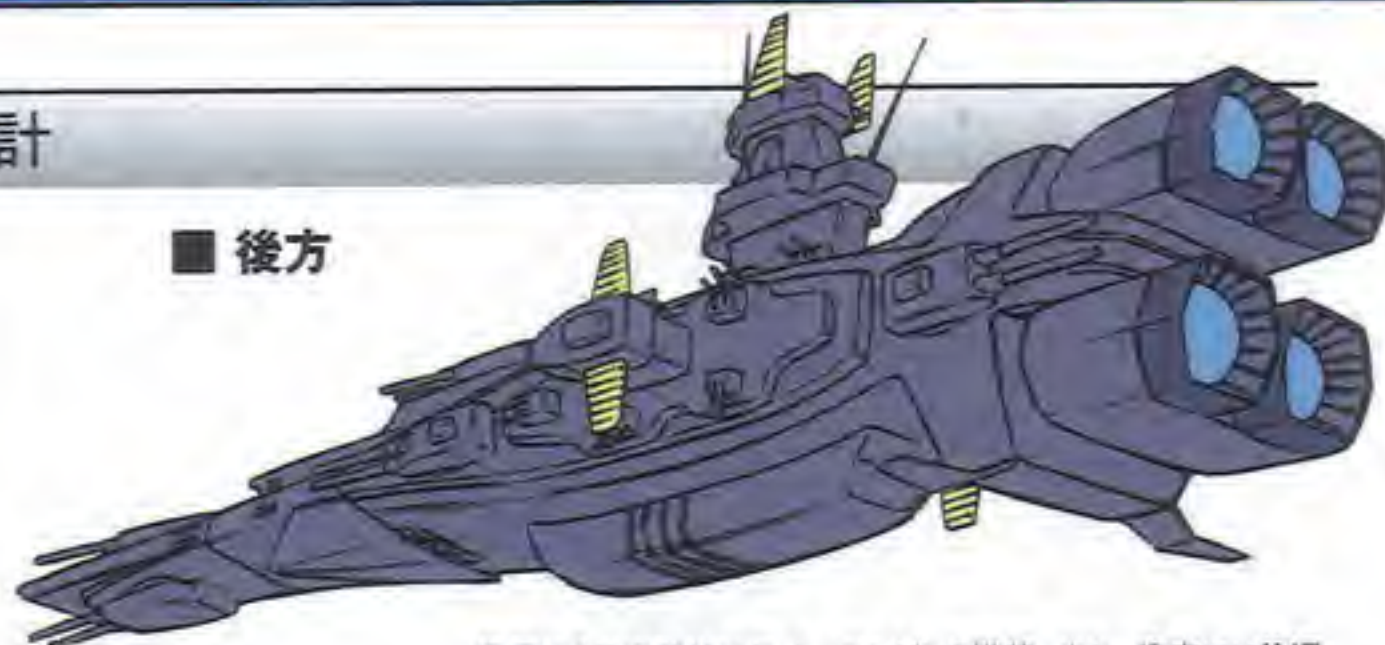
ジャブローからの打ち上げの際には、専用のブースターが用いられた。形状は異なるがブースターはサラミス級にも用意された。

■ 艦橋

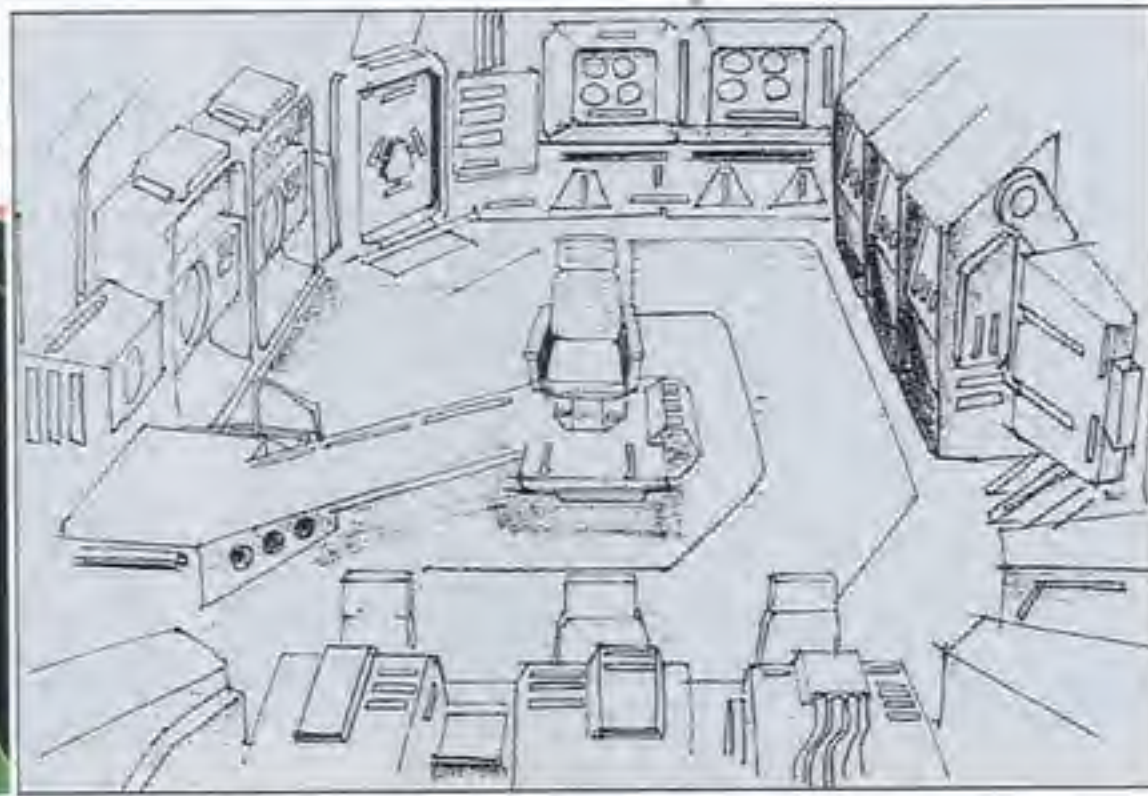
右図はブリッジ内部を前方から俯瞰したもの。中央にはアームで中空に配されたキャプテンシートが位置する。このほか、艦内には作戦室も設けられ、旗艦としての運用に対応していた。



■ 後方



艦尾に4基の熱核ロケット・エンジンを搭載。また、艦底には往通用の大気圏突入用カプセルを備え、大気圏突入性能の欠如を補っている。このカプセルは緊急時の脱出艇としても用いられた。



サラミスの艦体構造／武装

汎用性に優れた多機能艦

サラミス級もマゼラン級と同様、水上艦の設計を応用した構造を採用しており、艦体の上面と左右面に武装などを配している。ただし、戦闘艦としての性能を追求したマゼラン級とは異なり、本級は多用途艦として設計されていた。そのため汎用性に優れ、改修や再設計が容易な点を特徴としている。その特性は「ピンソン計画」でも活かされ、地球連邦軍艦隊戦力の再編を助けることとなった。マダガスカルやサフラン、シスコなどの艦が知られる。



ホワイトベースに随伴してルナツーを出港するサラミス級。MSに対しては劣勢を強いられましたが、地球連邦軍宇宙艦隊の主力として各地に配備され、一年戦争を通じて活躍した。

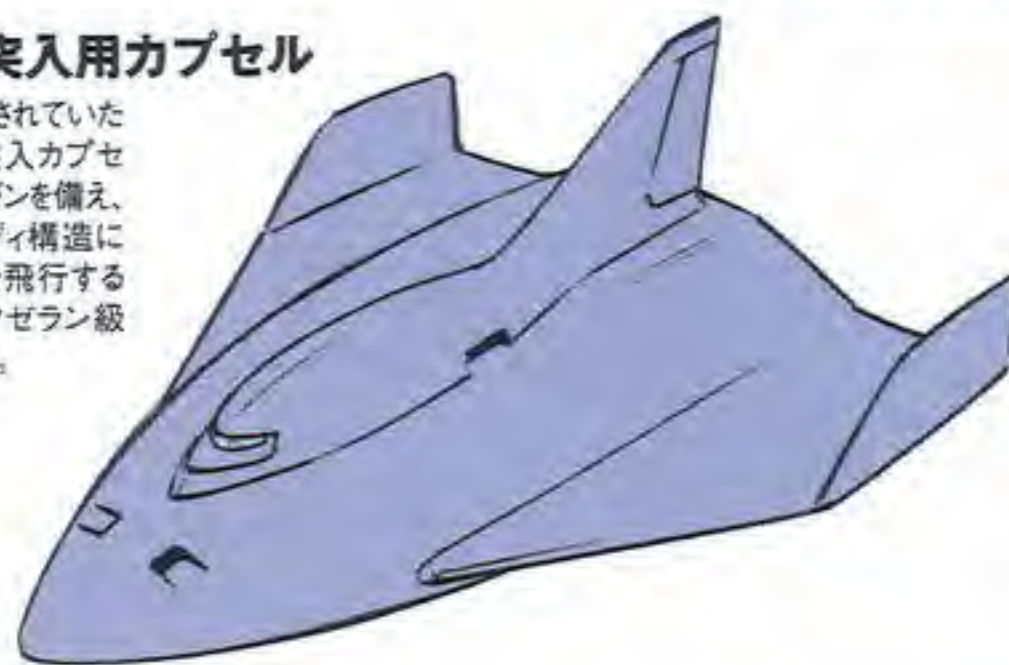
弾幕を展開するサラミス級の連装機銃。対空兵器をコンピュータ制御するファランクス・システムによって高度な対空防御性能を誇ったものの、ミノフスキー粒子によって効果は激減している。



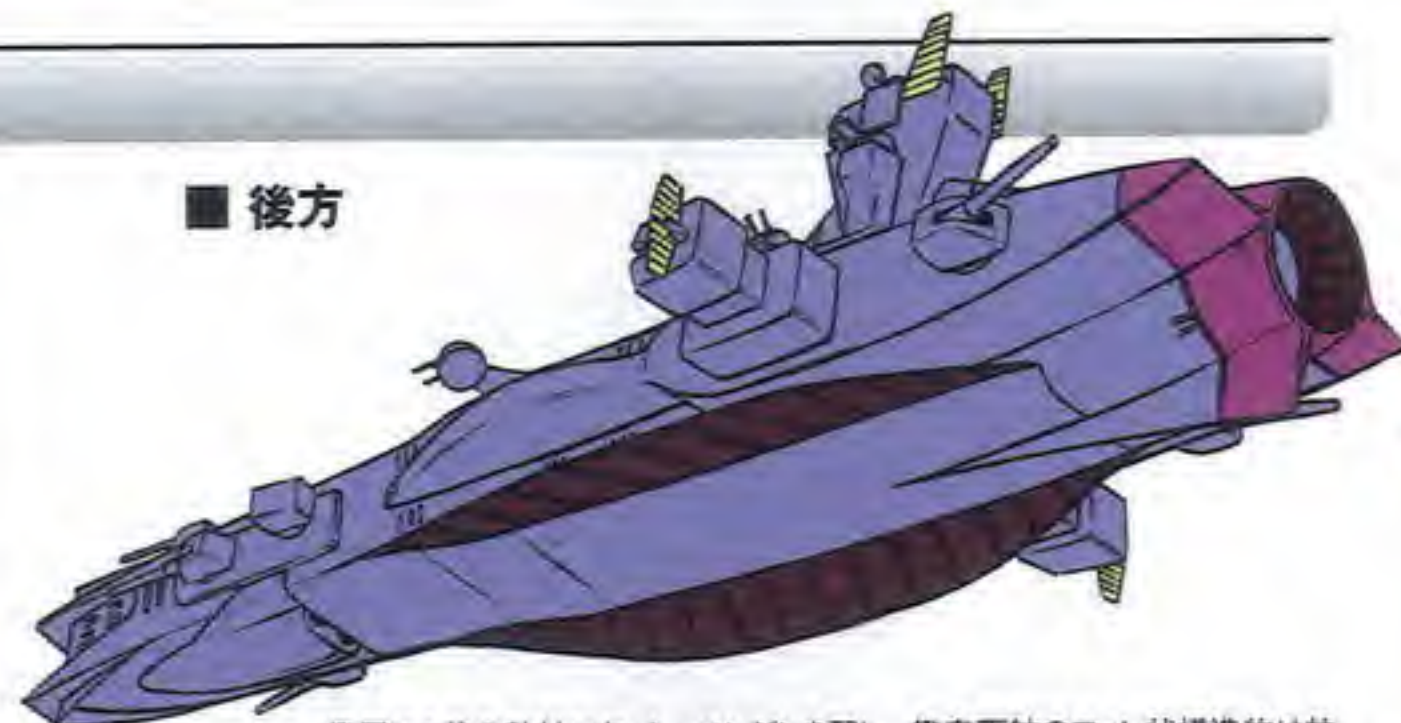
一年戦争後期にはMS運用能力が付与されたサラミス級だが、甲板への係留をはじめ、MSの搭載には、いくつかの方式があったようだ。

■ 大気圏突入用カプセル

サラミス級に装備されていた往通用大気圏突入カプセル。ロケット・エンジンを備え、リフティング・ボディ構造によって大気圏内を飛行する性能を有する。マゼラン級のものと同じ構造。

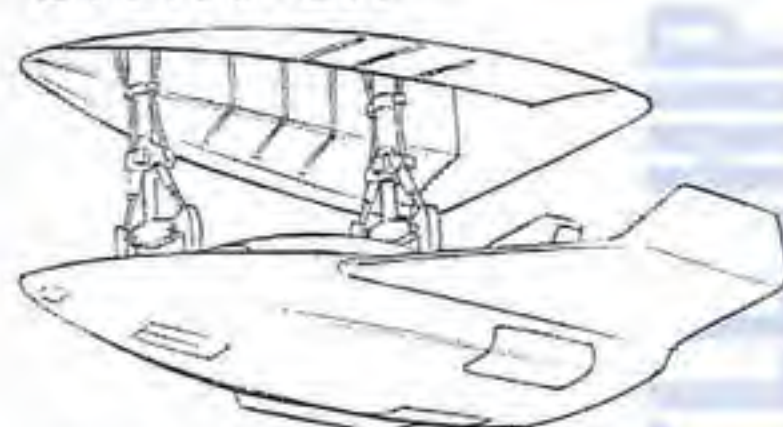


■ 後方



艦尾に1基の熱核ロケット・エンジンを配し、艦底両舷のフィン状構造物は放熱板とされる。また、艦首底面には大気圏突入用カプセルを装備している。

● ドッキング・ロック



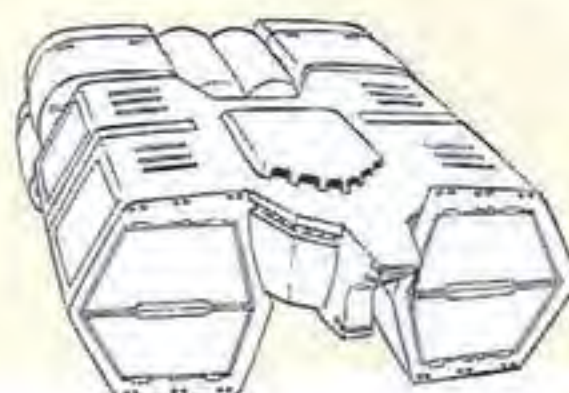
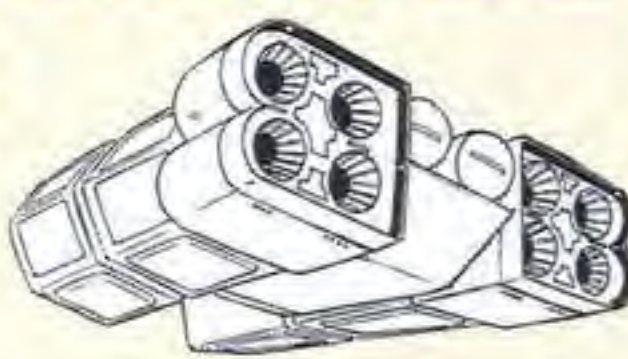
大気圏突入カプセルの回収時には、ドッキング部分から2本のアームが伸びてカプセルと連結する。分離時も同様にアームで艦外に移動する。

MORE INFO!

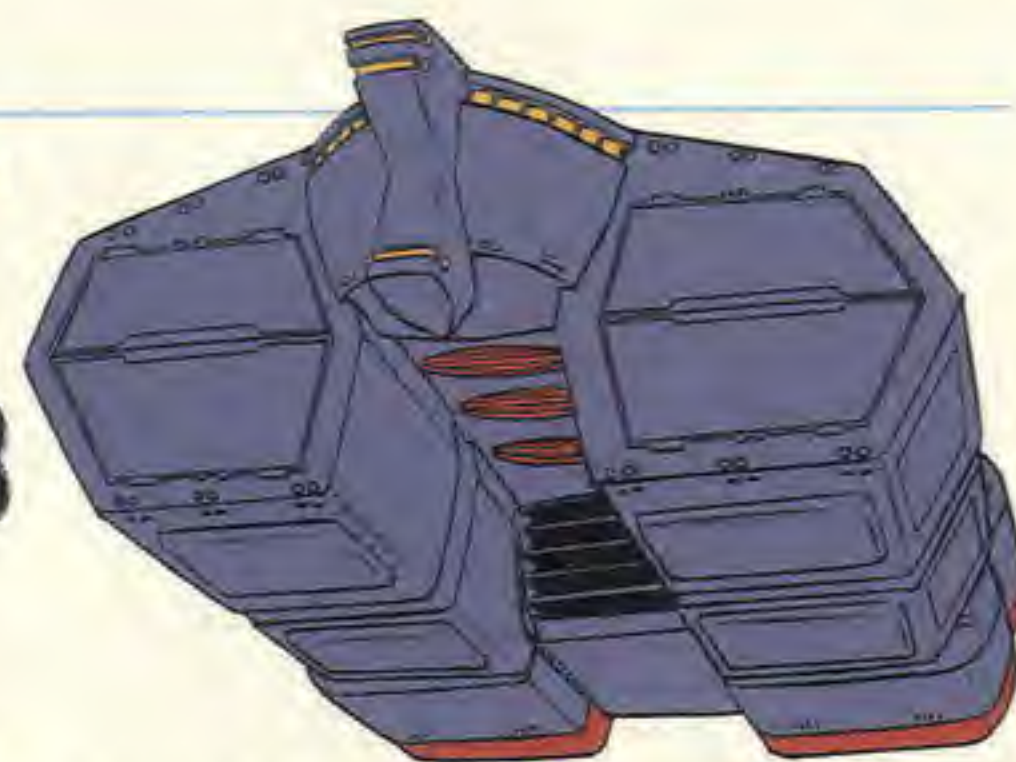
地球連邦軍の宇宙補給艦

前述したように、マゼラン級とサラミス級はMSの搭載・運用能力をほとんど有していなかった。それを補うために開発されたのが、このコロブス級宇宙輸送艦である。本級は巨大なコンテナを両舷に配した構造を特徴とし、そのコンテナ・スペースにはMS 1個中隊とその運用に必要な物資を格納・運搬する能力を有していた（50機のMSを搭載できたとされる）。その性能によって本級は、戦闘艦としての特性が強いマゼラン級とサラミス級を支援した。また、本級を宇宙空母として改装した艦もあり、1番艦の名称からアンティータム級、もしくは改コロブス級と呼ばれた。それらの連携により、地球連邦軍はMS配備後の宇宙艦隊を機能させたのである。

■ コロブス級宇宙輸送艦



コロブス級はMSの運用だけでなく、ソロモン攻略戦でノーラ・システムの運搬も担った。また、ア・バオア・クー戦を前に集結した第1連合艦隊の中にも、同級が確認できる。



艦首中央に艦体と一体化したブリッジを配し、コンテナ部分の艦尾側に計8基のエンジン・ノズルを備える。戦闘能力は有していないが、優れた運搬能力を誇り、マゼラン級とサラミス級の欠点をフォローした。

ZGMF-X24S

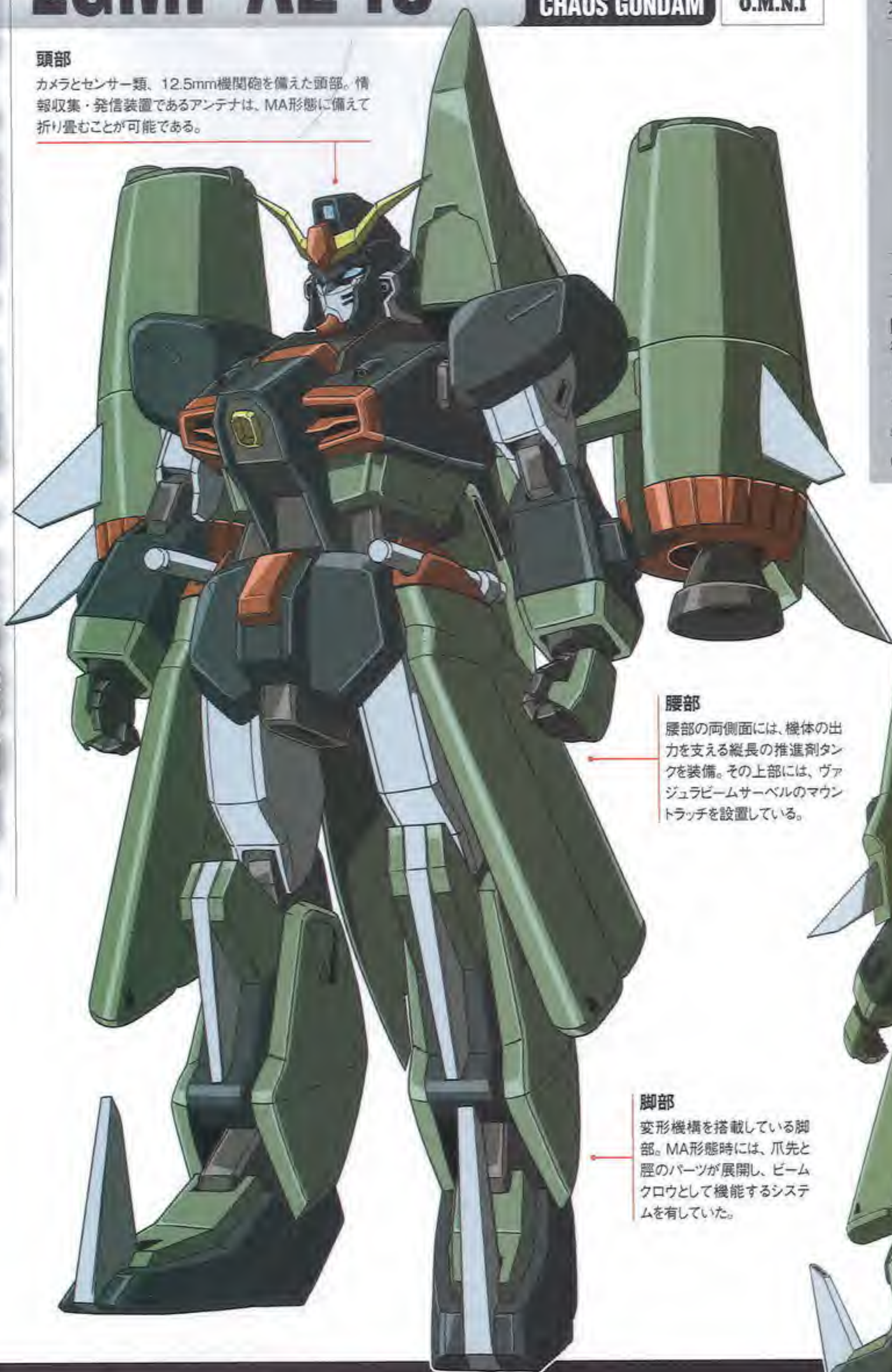
カオスガンダム

CHAOS GUNDAM



頭部

カメラとセンサー類、12.5mm機関砲を備えた頭部。情報収集・発信装置であるアンテナは、MA形態に備えて折り畳むことが可能である。



腰部

腰部の両側面には、機体の出力を支える縦長の推進剤タンクを装備。その上部には、ヴァジュラビームサーベルのマウントラッチを設置している。

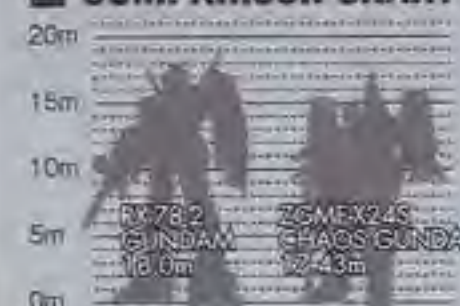
脚部

変形機構を搭載している脚部。MA形態時には、爪先と脛のパーツが展開し、ビームクロウとして機能するシステムを有していた。

SPEC

全高	17.43m
重量	91.61t
ジェネレーター出力	—
スラスター推力	—
装甲材質	VPS装甲
武装	MMI-GAU1717 12.5mmCIWS×4 MMI-GAU25A 20mmCIWS×2 MA-M941 ヴァジュラビームサーベル×2 MGX-2235B カリドゥス改複相ビーム砲 / EQFU-5X 機動兵装ボッド (MA-B1R ビーム突撃砲) ×2 / AGM141 ファイアーフライ誘導ミサイル×12 MA-XM434 ビームクロウ×2 MA-BAR721 高エネルギービームライフル MMI-RG30 巡航機動防盾
所属	ザフト・地球連合軍
搭乗者	スティング・オークレー

COMPARISON CHART



COLOR



背部

MS形態時の背部には、MA形態時の頭部カバーと、機動兵装ボッドがレイアウトされている。MA形態時にはユニットごと頭部に覆い被さる形となった。



オールレンジ攻撃を可能とするザフト製の可変機

C.E. (コズミック・イラ) 73、アーモリーワンに潜入したエクステンデッドのひとり、スティング・オークレーが奪取したザフトの新型可変機が、カオスガンダムである。そのままスティングの乗機となり、ミネルバ隊と激戦を繰り広げた本MSは、宇宙戦を重視しながらも、幅広い戦況・作戦に対応する高性能機であった。

カオスは、VPS (ヴァリアブルフェイズシフト) 装甲やデュートリオンビーム送電システムなどを標準装備した、ザフトセカンドステージシリーズにカテゴリ化される機体であった。さらに本機では、宇宙での機動性や戦闘能

力を限界まで高めることに主眼が置かれており、その施策のひとつとして、試作MA・プロトカオスをベースとした航空宇宙型MA形態を搭載。この形態では、大出力スラスターを備えたドラグーンシステムの発展系「機動兵装ボッド」の能力を最大限に発揮することができ、宇宙空間において優れた戦闘力と機動性を獲得した。また、機動兵装ボッドの装備は、大気圏内での機動力強化にも繋がり、カオス単独での飛行も実現。セカンドステージシリーズの高い基礎性能もあり、地上でも充分な戦闘力を有したのである。

関連ファイル

ZGMF-X23S セイバーガンダム	DES-01-02
ZGMF-X88S ガイアガンダム	DES-01-12
ZGMF-X31S アビスガンダム	DES-01-13
スティング・オークレー&アウル・ニーダ	DES-02-15

FILE PREVIEW

DES-02-15 スティング・オークレー&アウル・ニーダ



ファントムベインに所属するエクステンデッドで、アーモリーワンでガンダムを強奪した実行犯。スティングは奪取したカオスのパイロットとなり、ミネルバとの交戦を行った。

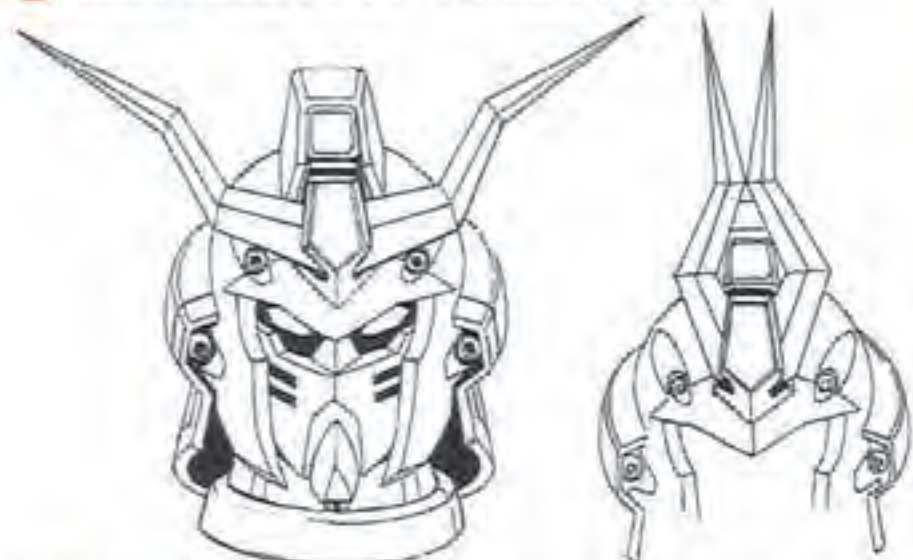
MS形態

中距離戦闘に長けたMS形態

カオスのMS形態は、ザフトセカンドステージシリーズの高い基礎性能と、本機の特徴である優れた機動性を遺憾なく発揮できる形態である。主武装となる中距離戦闘用のビームライフル、近接戦闘用のビームサーベルは、ダガーLやウィンダムなど、地球連合軍の主力機を撃破できるだけの攻撃力を確保。さらに、機関砲付きのシールドや、頭部、胸部に備えた計6基のCIWSによって、環境を問わない多彩な戦闘を可能としたのである。

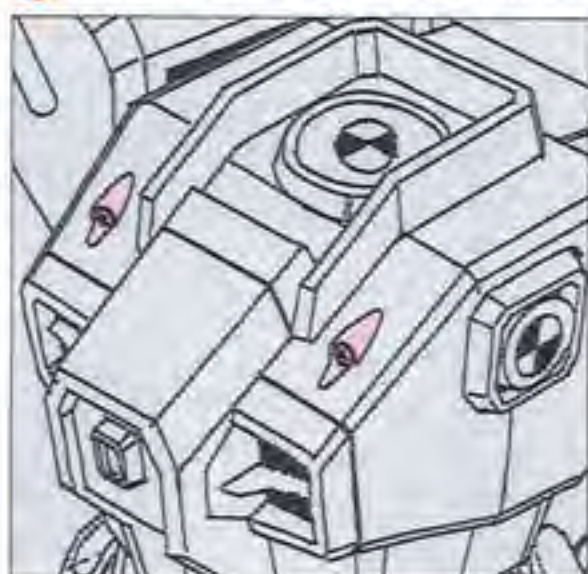
■ MS形態

A MMI-GAU1717 12.5mmCIWS



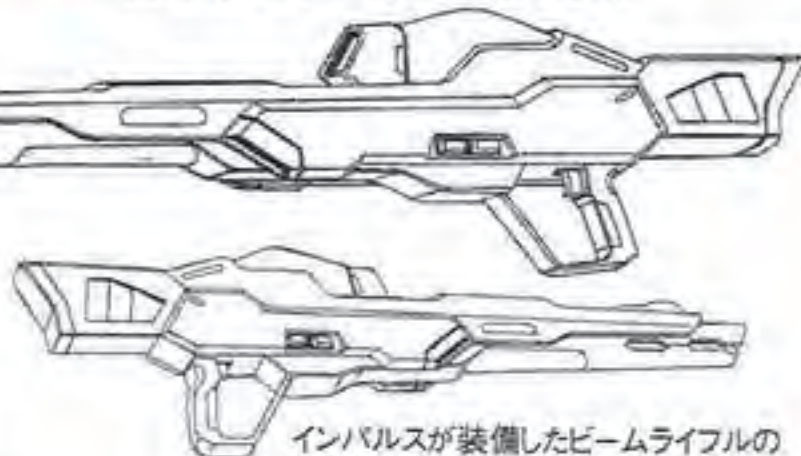
アンテナ基部と側頭部に2門ずつ設置された実弾砲。右図はアンテナを折り畳んだ状態で、頭部にカバーが設置されるMA形態時のものである。

B MMI-GAU25A 20mmCIWS



頭部だけでなく、胸部にもCIWSを設置。口径は頭部のものより大きい。こちらも牽制用として使われた。

C MA-BAR721 高エネルギービームライフル



インパルスが装備したビームライフルの改良タイプ。高速戦闘に適した仕様となっている。

D MA-M941 ヴァジュラビームサーベル

腰部に設置された、セカンドステージシリーズ共通の格闘兵器。予備用も含め2基備えている。



E MMI-RG30 巡航機動防盾



76mmの近接防御機関砲を内蔵した小型のシールド。通常は左腕部のハードポイントに装着されている。

MA形態

宇宙環境を想定した特殊MA形態

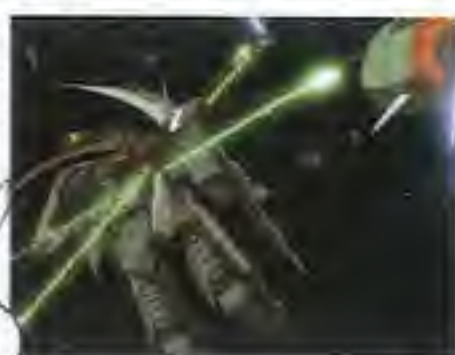
航空宇宙型MA形態と呼ばれる本機のMA形態では、頭部をビーム砲付きのカバーによって覆い隠されるほか、折り畳まれた脚部先端からビームクローが射出された状態となる。また、この形態では機動兵装ポッドが機体正面を向くため、ポッド自体を機体から分離・遠隔操作することが容易となり、その能力を最大限に発揮できた。一方で腕部は変形しないため、ビームライフルやビームサーベルはMS形態と同様に使用可能となっている。



MS形態とMA形態は瞬時に切り替えが行える機構となっており、戦況に応じて形態を変更することができた。パイロットとなったスティンガーもそうした特徴を十分に活かしていた。

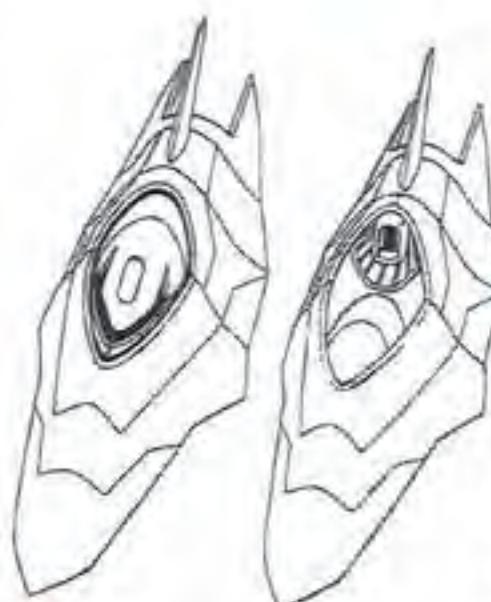
A EQFU-5X 機動兵装ポッド

ドラグーンシステムの発展系である無線誘導兵器。ポッド自体にMA-81Rビーム突撃砲を設置し、使用時には砲身が延伸する構造であった。



ポッド内にはAGM141ファイアーフライ誘導ミサイルが12基内蔵されている。発射時には前方のカバーが展開する方式であった。

■ MA形態



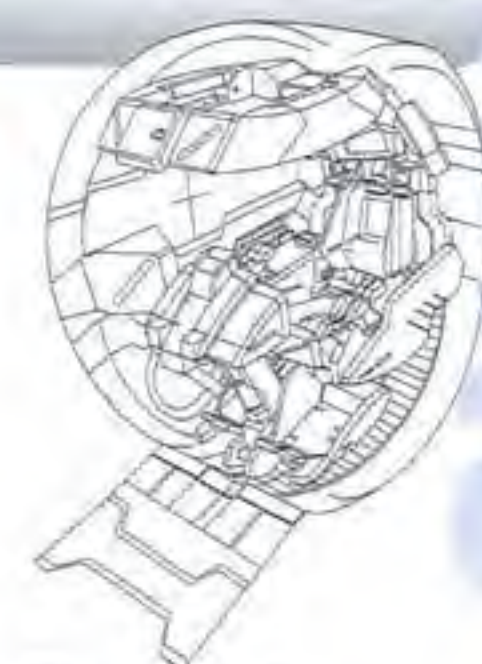
B MGX-2235B カリбус改 複相ビーム砲

頭部カバーに設置された大型火砲。使用時にはカバーがスライドして砲口が露出する。本機の中では最も破壊力のある武装である。

C MA-XM434 ビームクロー



MSを捕獲できるクローからは、高出力のビーム刃も形成することができた。このビーム刃を敵機に突き刺すことも可能である。



■ コックピット

ザフトセカンドステージシリーズ共通のコックピットを採用する。MS/MAどちらの形態でも操作系統に変化はなかった。

MORE INFO!

XMF-P192P プロトカオス

本機に搭載された航空宇宙MA形態のプロトタイプ。MA形態の有効性を検証するために開発されたもので、MS形態への変形機構は採用していない。カオスの特徴となっている機動兵装ポッドを4基備えるほか、ビームクローも装備している。試験的に6機が生産されたが、運用テスト中に半数が失われたと言われている。



ザフト兵のコートニー・ヒエロニムスがアーモリーワンに残されていた試作機に搭乗し、実戦に参加したとの記録も残されている。

可変MSセイバーのプロト機

RGX-04 [ZGMF-YX21R] プロトセイバーガンダム

PROTO SAVIOUR GUNDAM

unknown

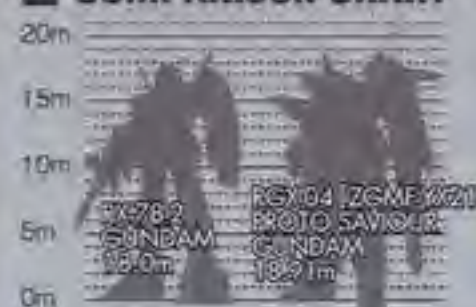
武装

武装は後発機のセイバーと同じと思われる。ベルナデット・ルルー救出時などでは、セイバー用と同形のビームライフルを装備した。

SPEC

全高	18.91m
重量	77.13t
ジェネレーター出力	—
スラスター推力	—
装甲材質	VPS装甲
武装	20mmCIWS×2 / M106 アムフォルトス プラズマ収束ビーム砲×2 / MA-M941 ヴァジュラ ビームサーベル 他
所属	一族
搭乗者	イルド・ジョーラル

COMPARISON CHART



COLOR



変形機構

セイバーと同様の変形機構を持つ。プロトセイバーの時点で、セイバーは完成していたと考えていい。MA形態は、高度な空戦能力と機動性を発揮する。

背部

2基のビーム砲を持つバインダー、主翼、スタビライザーから構成される背部構造物群も、セイバーと同型のもの。+11仕様は、スタビライザーに替わって合体パーツを搭載。

カラーリング

黒を基調としつつ、変形時のパーツの状態を確認するために白いラインが入れた。機体色と模様はVPS装甲で再現されているため、変更も可能である。

「一族」の手に渡った黒いセイバー

ザフトのセカンドステージシリーズの1機種、ZGMF-X23S セイバーのプロト機にあたるのが、RGX-04 (ZGMF-YX21R) プロトセイバーである。RGX-04は「一族」が入手した際に付された地球連合軍式の型式番号、ZGMF-YX21Rはザフトでの型式番号となる。

プロト機であるため信頼性はやや低いようだが、変形機構を含む構造や基本性能は正式なセイバーと同等で、武装も施されているため実戦に耐え得る。アスラン・ザラに与えられたセイバーは、プロトセイバーで得られたデータを基に宇宙で組み立てられた機体だった。

大気圏内での運用（飛行）を強く意識したプロトセイバーは、オーブ連合首長国の協力の下、秘密裏に開発されていた。地球に降ろされ、大気圏内での飛行・変形テストに供されたのは、この機体特性による（他のセカンドステージシリーズとそのプロト機は、アーモリーワンや周辺宙域でテストされたと見られる）。

テスト後、解体処分待ちだったというプロトセイバーは一族の手に渡り、ウイルス散布能力を付与された。この機体は一族のエース育成機関「サーカス」に所属するイルド・ジョーラルに与えられている。

関連ファイル

ZGMF-X23S セイバーガンダム	DES-01-02
ZGMF-X11A リジェネレイト	AGS-01-138
フェイスシフト (PS) 装甲	SEED-03-20
ニュートロンジャマーキャンセラーと核動力	SEED-03-21
セカンドステージシリーズとニューレニウムシリーズ	DES-03-15

FILE PREVIEW

DES-01-02 ZGMF-X23S セイバーガンダム



可変機構を備える試作MSで、ザフトのセカンドステージシリーズとして開発された。機動性を重視しており、高速飛行が可能なMA形態に変形できる。アスラン・ザラが搭乗。

機体構造／武装

特殊なカラーリングとウイルス散布能力

プロトセイバーとセイバーの違いは少ない。基本構造、変形機構、装甲形状、武装などは同等で、機体色と信頼性に差がある程度だったと見られる。プロトセイバーの外見上の特徴である機体色は、VPS装甲の電圧調整によるもので、黒系を主体に白いラインを加えていた。白いラインは変形時にパーツの状態を確認するためのもので、テスト以外での必要性は薄い。にもかかわらず一族で同じ機体色が継承されたのは、パイロットのイルドが元同胞のカイト・マディガン（乗機に白い十字を印すことで知られる）を真似たためだという。機体外の量子コンピュータを操るウイルスの散布能力は一族で追加された。

■ 側面

武装、主翼、スタビライザーなど、(プロト)セイバーの機体特性を示す主要パーツは背部に集約していることがわかる。主翼と武装バンダーには、プロトセイバーの特徴である白いラインが施された。

■ 頭部

イージスやジャスティスの影響下にある機体らしく、長大なセンサーマストを備える。量子コンピュータ操作ウイルスの散布端末は、この額部アンテナに搭載されたようである。

■ シールド

カラーリング以外、セイバー用と同形のシールドで空力装置を兼ねる。失うとMA形態での空気抵抗が著しく増加し、飛行能力が低下する。宇宙では特に影響はないようである。

■ MA形態

高度な機動性と飛行性能を持つ形態。大気圏内における飛行および変形時のストレスにより、飛行能力は実証された。テストの実施については不明だが、宇宙での機動性も高い。

装 備

核動力機との合体

プロトセイバーにZGMF-X11A リジェネレイトのコアユニットを接続した機体が、RGX-04 (ZGMF-YX21R) + 11 プロトセイバー+11である(+11の名称はリジェネレイトと合体したことを意味する)。『一族』崩壊後、プロトセイバーの強化策としてイルドが導入した。ニュートロンジャマーキャンセラーと核エンジンを持つリジェネレイトのコアユニットと合体したことで、無限に近いパワーを得ている。リジェネレイトは分離と遠隔操作が可能だが、その際、プロトセイバーのパワーは有限となってしまふ。

■ リジェネレイト合体パーツ

リジェネレイトと合体するため、プロトセイバーの背部に増設されたパーツ。プロトセイバーはリジェネレイトとの合体に必要な「コネクター」を持たないため、標準装備のスタビライザーの代わりに設置された。

■ RGX-04 [ZGMF-YX21R] + 11 プロトセイバーガンダム+11

巨大なリジェネレイトを背部に接続したことで、2倍近いボリュームの機体となった。コクピットはプロトセイバー側にあり、リジェネレイトを分離した場合、ウイルスを使って遠隔操作する。

■ MA形態

● 後方

宇宙での高速移動能力が向上したほか、リジェネレイト部バンダーのクローを用いた近接格闘戦も可能。大気圏内での飛行特性は、重戦闘機格的性格が強くなったと思われる。

ガランシェール隊隊員

Garencieres Party

PROFILE

年齢 30歳(ギルボア)
所属 『袖付き』
階級 不明
出身 不明
技能 MS操縦(ギルボア/サボア)、艦艇操縦(ギルボア)



『袖付き』を代表する
実行部隊に身を寄せた男たち

U.C.0090年代後半、ネオ・ジオン残党軍『袖付き』に身を寄せた者、協力した者たちの境遇や思惑は様々であった。無論、スペースノイドの独立を掲げたジオンの志を抱き続けた者はいただろう。だが、一年戦争から20年近くが過ぎれば、熱意が薄れても不思議ではない。それでも『袖付き』が存在しえたのは、それぞれに戦う理由があったからこそである。その中には、戦うこと自体が意義になっていた者もいた。ガランシェール隊は、そうした者の集まりだったとも言える。そして、ギルボア・サントとサボアは、その集団に身を置いた男たちだった。

U.C.0096、ガランシェール隊は『ラプラスの箱』を巡るヒスト財団との取り引きに臨み、ギルボアとサボアもその任務に参加した。しかし、事態は彼らの想像を超えて急転し、ふたりは争乱の中にのめり込んでいくのだった。



ギルボアは、ガランシェール隊を支えるネオ・ジオン残党兵として『ラプラスの箱』を巡る戦いに身を投じた一方、家族を守る親としての務めも果たそうとした。



『袖付き』有数の実行部隊として知られるガランシェール隊に所属したサボアは、その名に恥じない勇気を持ったパイロットで、争乱の渦中に生を刻んだ。

CHARACTER

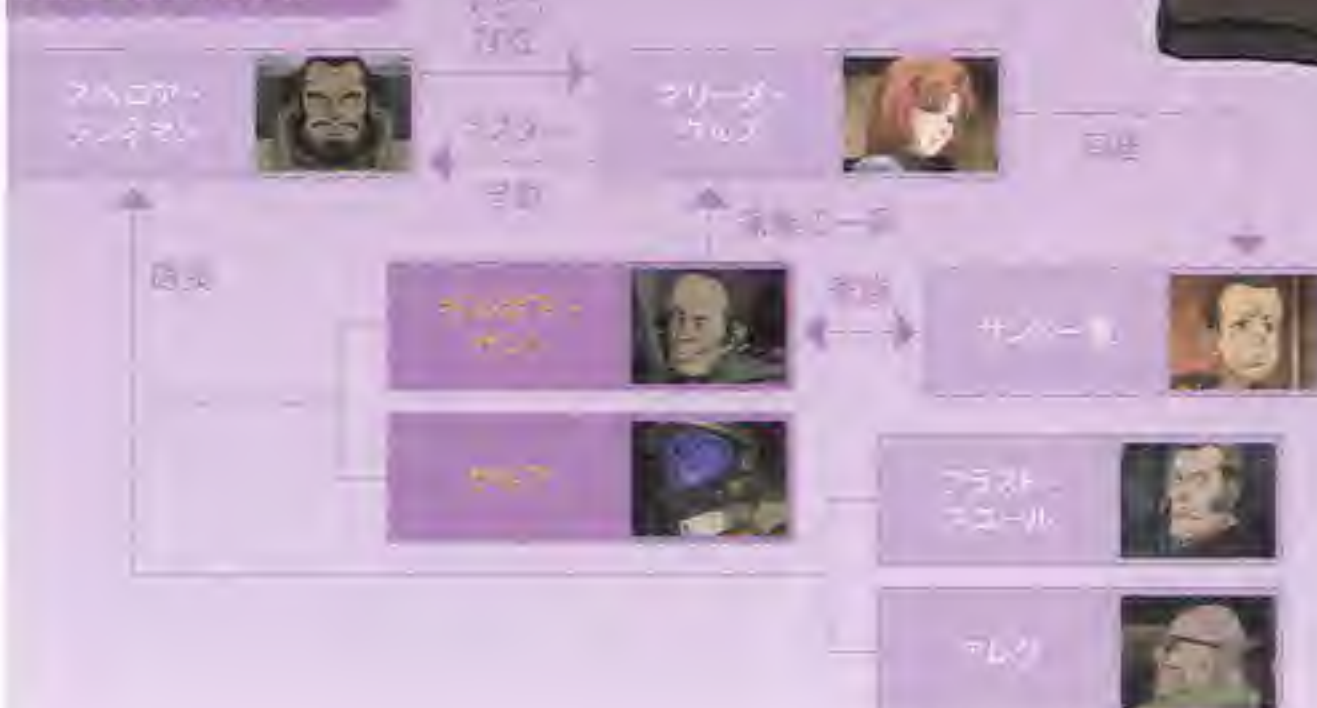
その人格

ギルボアは人懐っこい性格で、任務中でもくだけた調子を貫く余裕を持った人物だった。その一方で、家庭では息子のティクバの無遠慮を注意する厳しい父親の顔も見せる。また、サボアは粗暴な面もあったが、責任感の強い兵士だった。



任務に向かう父に駄々をこねるティクバに、優しく接するギルボア。親としての包容力にあふれた大人だったと言える。

RELATIONS



◀ギルボア・サント

『ラプラスの箱』事件の始まりに関与したネオ・ジオン残党兵

MAIN MS / MAIN MECHANIC



AMS-129
ギラ・ズール

アナハイム・エレクトロニクス社によって開発された『袖付き』の主力MS。AMS-119ギラ・ドーガから連なるジオン系MSで、ガランシェール隊でも運用されていた。



ガランシェール

『袖付き』に所属するガランシェール隊の母艦として運用される航宙貨物船。4機のMSを搭載可能であり、大気圏突入や重力下飛行も可能な多機能船だった。ギルボアは船の操舵手を務めた。

関連ファイル

AMS-129 ギラ・ズール	UC-01-14
レウルーラ / ガランシェール	UC-01-18
スベロア・ジンネマン	UC-02-15
マリーダ・クルス	UC-02-16
ネオ・ジオン(『袖付き』)	UC-03-13
資源衛星パラオ	UC-03-16

FILE PREVIEW

UC-02-15 スベロア・ジンネマン



『袖付き』の偽装貨物船ガランシェールの船長。行動部隊ガランシェール隊の隊長であり、部下のギルボア、フレスト・スコールらとは長年の仲間で、厚い信頼で結ばれている。

ギルボア・サント

ギルボアは少年兵として一年戦争に参加し、アフリカで捕虜となった。そこからギルボアを救ったのが、のちにガランシェール隊の隊長となるスベロア・ジンネマンである。しかし、終戦後に起きた悲劇による妻子の喪失は、ジンネマンを復讐の鬼へと変貌させ、ギルボアたちの運命も変えることになる。時を経て、妻と3人の子供を支える立場となったギルボアは、その一方でガランシェール隊の一員としてジンネマンを支えていく。

U.C.0096、ジンネマンと共に「ラプラスの箱」を巡る戦いに身を投じたギルボアは、ユニコーンガンダムのパイロット、バナージ・リンクスと出会う。捕虜となったバナージを受け、家族の中で面倒を見るギルボア。しかし、ロンド・ベル隊のネェル・アーガマによるパラオ攻略戦でバナージが脱走し、「箱」の在り処を探るための捨て石とされたマリダ・クルスが捕虜になる。その状況において、ギルボアはジンネマンの心情を気遣い、マリダの奪還作戦に名乗りを上げるのだった。

マリダを救出すべくネェル・アーガマを襲撃したギルボアだったが、事態を察知したバナージにその行動を阻まれる。さらに、NT-Dを発動させたバナージがフル・フロンタルを追い詰め、救援を試みたギルボアはシナンジュの盾となってユニコーンガンダムのビームに機体を貫かれる。薄れゆく意識の中で残される家族を思いながら、ギルボアは爆発に呑み込まれていったのだった。



ガランシェール隊では相棒のフラスコ・スコールと共に物資輸送船ガランシェールの船長を務めていた。パイロットとしてもベテランで、優秀な兵士だったと言える。

プライベートでは妻とティクハたち3人の子供を養う良き夫、良き父親であり、家族からも愛されていた。それゆえ、戦うことに複雑な感情も抱いていたようだ。



サボア

ガランシェール隊でMSパイロットを務めていたサボアは、〈インダストリアル7〉における「箱」の取り引きに際して、ギラ・ズール単機でコロニー外の潜伏哨戒を担った。しかし、それに介入したロンド・ベルのMS部隊に遭遇し、敵中に孤立することとなる。進退窮まった緊張感に耐えかね、ロンド・ベルに対して戦端を開いたサボアだったが、多勢に圧倒されて乗機を損傷。それでも、スペースノイドの意地と地球連邦軍への敵愾心が、サボアを絶望的な戦いに駆り立ててゆく。そして、ネオ・ジオンの栄光を叫びながら敵機に特攻を仕掛けたサボアは、返り討ちに遭って命を落とし、「箱」を巡る争いの始まりで、その生涯を閉じたのである。



サボアは勝利を望むが、ガランシェール隊の中には経験の少ない部隊のパイロットだった一隊には、飛行時間は1000時間弱で、ルーキー扱いだったという。

ロンド・ベルのMS部隊を相手に孤軍奮闘し、勇敢な戦いぶりを見せた。しかし、その行動が戦端の口火を切り、〈インダストリアル7〉を混乱に陥れることとなる。



- ① 愛嬌のある表情がギルボアの特徴で、面倒見も良かったことから捕虜になったバナージを任されたと考えられる。また、パラオではマリダの面倒も見ている。
- ② パラオの自宅で過ごした際の普段着。質素な服装で、当時のネオ・ジオン兵の生活レベルが見て取れる。ちなみに、クッキー作りが得意だったとも言われる。
- ③ 〈インダストリアル7〉における哨戒任務でのサボアのノーマルスーツ姿。「袖付き」で用いられていた一般的なもので、オリブグリーンを基調としたカラーリングが特徴。
- ④ ヘルメットの後部には、スーツのバックパックへと繋がるチューブが配されている。パイザーの色は紫。ノーマルスーツのデザインはギルボアも同様に「袖付き」共通のもの。



サボアはジンネマンが「箱」の取り引きに臨む間、〈インダストリアル7〉の外で監視に就いていたが、ロンド・ベルの展開に気付かず囲まれることになる。



サボアは自ら戦闘を仕掛けてリゼル1機を撃墜するも、数に勝るロンド・ベルに押されて劣勢に追い込まれる。最期は敵機のビームに乗機を撃破され、命を落とした。



ギルボアは〈インダストリアル7〉における「箱」の取り引きの際はガランシェールに残って連絡役を担い、ロンド・ベルに包囲された状況を即座に把握して脱出に成功している。



捕虜となったバナージを預かり、家族の食事に同席させるギルボア。だが、ジオンの所業を糾弾して自己弁護するバナージに波面を浮かべる。



マリダがネェル・アーガマに囚われると、ジンネマンに先んじてその奪還を提案する。しかし、マリダの救出は叶わず、バナージの攻撃によって非業の死を遂げることになった。

MORE INFO!

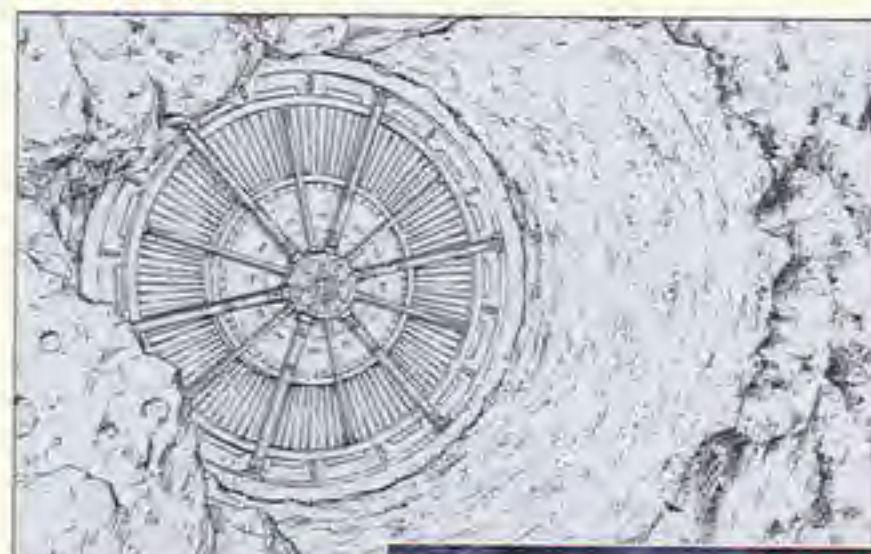
ネオ・ジオン残党軍「袖付き」がU.C.0096の時点で拠点としたのが、資源衛星パラオであった。サイド6の特別行政区に属し、L1軌道上の暗礁宙域の外れに位置したと言われるこの鉱物資源衛星は、コロニー建設の最盛期には内部の採掘場から鉱石を産出していたという。しかし、鉱脈が枯れて衰退したのちは、ジオン・シムバの総督が「袖付き」を招き、その潜伏先となった。「袖付き」のメンバーの中にはパラオに家庭を持つ者も多く、ギルボアも任務がないときには居住区の自宅暮らしをしていた。しかし、パラオ攻略戦によってそこは戦場となったのである。



内部に建設された居住区の街並み。雑多な建物が立ち並ぶダウンタウンで、U.C.0096の当時は活気を失い閑散としていたが、それでも多くの人間が住処としていた。

パラオの居住区

■重力区画



パラオを構成する小惑星をくり抜き、シールドマシンを兼ねた回転ドラムを埋め込んだ居住ブロック。そのサイズは直径1.6km、長さ2kmにも達したと言われる。



ルナツーの地球連邦軍士官

OFFICERS in LUNA II

PROFILE

年齢 不明
 所属 地球連邦軍
 階級 少佐(ワッケイン)、中尉(リード)、少尉(カミラ)
 出身 不明
 技能 部隊/艦隊指揮(ワッケイン)、部隊指揮(リード)

最後の砦に身を置きつつ、
状況を静観し続けた軍人たち

一年戦争緒戦の記録的な大敗によって、地球連邦軍はその版図を大きく減ずることとなった。特に宇宙における後退は著しく、制宙権を失った連邦軍は宇宙での活動を制限され、その影響は公国軍部隊の地球降下を阻止できないという結果を生み出してしまった(公国本国は地球から最も遠い宙域に位置しており、地球降下には制宙権確保は必須である。それは連邦軍も承知していたが、まんまと公国軍に出し抜かれる形となった)。そのような不利な状況下で、唯一、宇宙における連邦軍の活動拠点となったのが小惑星基地ルナツーである。そのためルナツーに赴任した連邦軍士官は、最後の橋頭堡を守るという気概を抱いていた——かという、実はそうではなかったようだ。すでに補給線を確保した公国軍にとってルナツーは戦略的価値が低く、一方の連邦軍士官には「目立つとジオンに攻撃される」との認識から一種の事なかれ主義が蔓延していたらしいのだ。



宇宙における最後の要衝を守るルナツー駐在士官たち。だが実際には公国軍の侵攻を止める力はなく、できるだけ目立たないように身をひそめているような状態だった。

そんな閉塞した状況でも司令官ワッケインは持ち前の生真面目さを発揮。戦意と連邦軍士官としてのプライドを失うことなく、ルナツーの機能を維持し続けたのだった。



CHARACTER

その人格

停滞する雰囲気の中、ルナツー司令官ワッケインだけは軍規の遵守に努めた。その姿は、規律を守ることと連邦軍の劣勢を跳ね除けようとするかのようにも見える。だが生真面目過ぎて、現実に対応する柔軟さがやや欠けていたようだ。



ホワイトベースが救出した難民の受け入れを拒絶するワッケイン。最前線に位置するルナツーには難民に割く余力がないとの判断だが、それはあまりに拘り定めと言えよう。

RELATIONS



◀ ワッケイン



◀ ワッケインの副官

MAIN MECHANIC



マゼラン級宇宙戦艦

U.C.0070年代の軍備増強計画によって配備が決定した連邦軍宇宙戦艦。メガ粒子砲や対空機銃など充実した火力を有しており、艦隊旗艦として運用されたが、ミノフスキー粒子とMSの前には無力だった。



サラミス級宇宙巡洋艦

マゼラン級戦艦と同時期に配備され、連邦軍艦隊の主力艦艇として運用された宇宙巡洋艦。MSの台頭に対抗すべくマイナーチェンジを繰り返し、多数の派生艦が誕生。U.C.0080年代後半にも運用されている。

関連ファイル

マゼラン/サラミス	FG-01-28
ブライト・ノア	FG-02-08
パオロ・カシアス	FG-02-11
大気圏突入戦	FG-03-06
U.C.の艦艇	FG-03-40
ホワイトベース隊	FG-03-52
一年戦争	FG-03-71

FILE PREVIEW

FG-02-11 パオロ・カシアス



ホワイトベース初代艦長。連邦製MS(RXシリーズ)受領のためサイド7を訪れていたところを公国軍部隊に襲撃され、重傷を負ってしまう。そのため艦を若者たちに委ねた。

宇宙の要衝「ルナツー」、
その地を守る連邦軍士官たち

ワッケイン / ワッケインの副官

U.C.0079.09.20、ルナツー司令官ワッケインとその副官は、ルナツーに入港したホワイトベースの乗組員を、有無を言わずに拘束した。緊急時の措置とはいえ、単なる士官候補生と民間人が軍の最高機密に触れてしまったからだ。この決定に対して乗組員は当然のように反発したが、ワッケインは耳を貸そうとしなかった。「定められた命令は厳守だ」という彼の言葉は模範的な意見そのものだが、現実を無視した堅苦しいものでもあった。



ホワイトベースの情報が漏洩するのを恐れたワッケインは、ルナツーに入った乗組員を拘束。これは連邦軍士官としては正しい判断だが、人道的にはやや受け入れ難いものがあると言えよう。

とはいえワッケイン自身も思うところがあったらしい。のちにニュータイプ部隊と称されるまでに成長したホワイトベースと共闘する機会を得た彼は、口元を浮かすまで接吻を送ったとされる。

リード

ワッケインの特命を受けたリードは、連邦軍本部ジャブローに向かうホワイトベースの先導役となった。だがこの任務は、彼の予想を上回る困難に満ちていた。ホワイトベースは公国軍にマークされており、行く先々で激しい戦闘が行われたのだ。ルナツーでの待機生活に身を委ねていたリードに実戦指揮が務まるはずもなく、不用意な命令を下して窮地を招くこともしばしばあった。ホワイトベースの苦難の旅は外患だけでなく内因も関係していたのである。



上に立つ立場にありながら固らずも実戦経験不足を露呈してしまったリード。だがワッケインの指示を無視するわけにもいかず、不承不承ながらも水先案内を務めたのだが……。

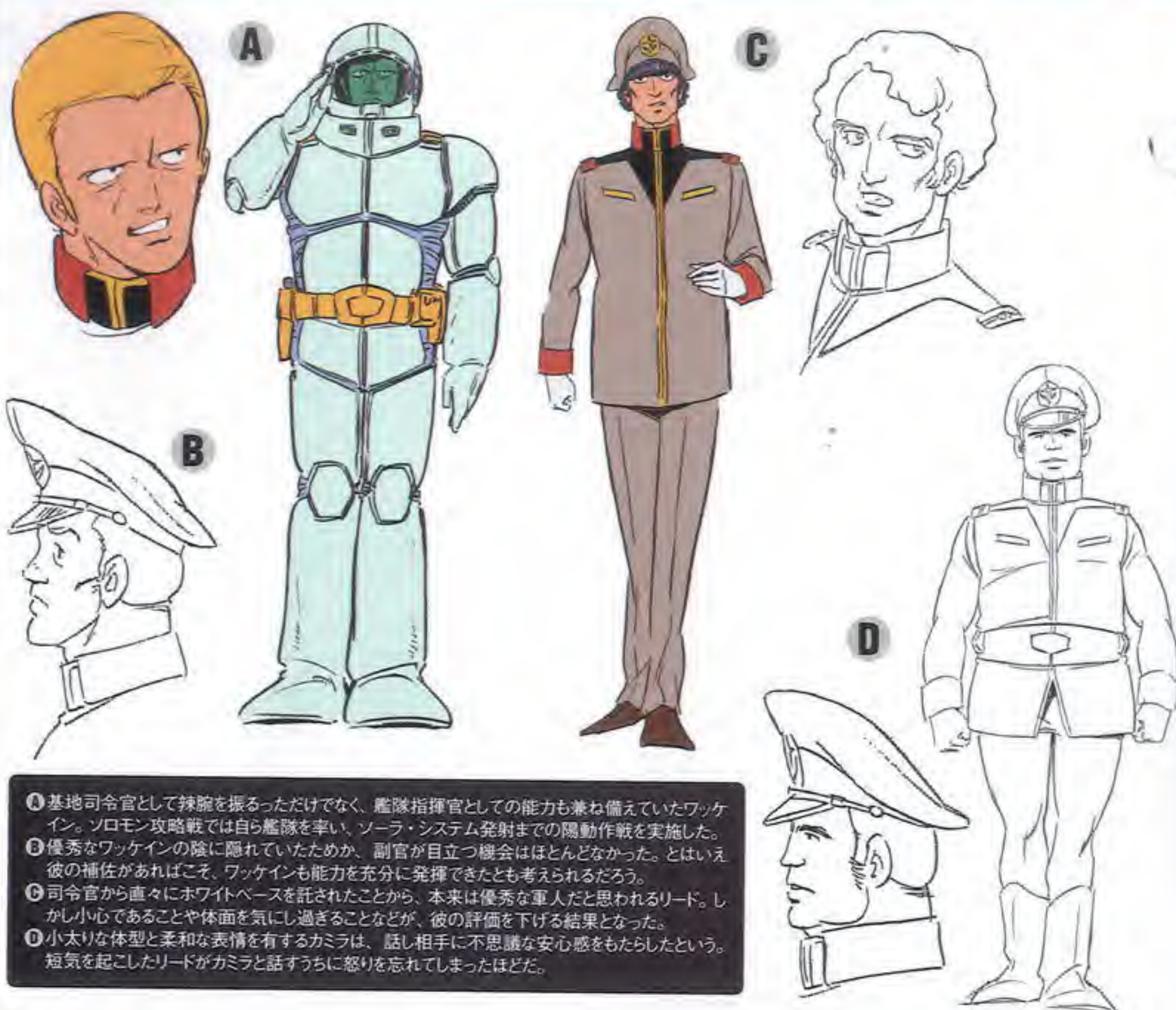
公国軍の猛攻の前にパニックを起こしたリードは無謀な指示を連発。敵部隊を前に不用意な転進を行わせるなど、逆にホワイトベースを危険に晒すこともあったほどである。

カミラ

リードの補佐としてホワイトベースに乗艦したカミラは、小心の上官とは対照的におっとりした性格だった。何事も楽天的に考える——それこそが彼の処世術だったのである。悪いことを考えても事態が好転するわけではない。それなら明るい結果を予想したほうがよほどいいだろう。常にオロオロするリードの傍らでどっしりと構えるカミラの姿は、傍目からも好対照をなしていたに違いない。



心配げなリードに、「やりようによっては逃げ切れます」と応えるカミラ(右)。これには当のリードも呆果て、「君はいつも楽天的だな」と称賛とも批判ともつかない感想を述べた。



- ① 基地司令官として辣腕を振るっただけでなく、艦隊指揮官としての能力も兼ね備えていたワッケイン。ソロモン攻略戦では自ら艦隊を率い、ソーラ・システム発射までの陽動作戦を実施した。
- ② 優秀なワッケインの陰に隠れていたためか、副官が目立つ機会はほとんどなかった。とはいえ彼の補佐があればこそ、ワッケインも能力を十分に発揮できたとも考えられるだろう。
- ③ 司令官から直々にホワイトベースを託されたことから、本来は優秀な軍人だと思われるリード。しかし小心であることや体面を気にし過ぎるなどが、彼の評価を下げる結果となった。
- ④ 小太りな体型と柔和な表情を有するカミラは、話し相手に不思議な安心感をもたらしたという。短気を起こしたリードがカミラと話すうちに怒りを忘れてしまったほどだ。



軍規を第一とするワッケインに拘束されてしまったホワイトベースの乗組員たち。同じ連邦軍に属する者に対してあまりに不当と思われる決定も、彼は躊躇うことなく実行に移している。



さらに乗組員たちが公国軍の襲撃に乗じて脱出を図ると、銃を向けて制止しようとした。自分の目の前で規律を乱されることに我慢がならなかったのだろう。

しかし方法はどうか、ワッケインも軍人としての務めを果たそうとしていた。だからこのルナツーを出入するホワイトベースに寂しげな眼差しを向けている。



地球に降下したホワイトベースを案内するリードだが、ジャブローからの援軍が望めないとかかれるや、乗組員に怒りを爆発させた。これが指揮系統の混乱を招き、ついにブライト・ノアはリードを無視して指揮を担当。その気迫にリードも不機嫌な顔で押し黙るしかなかった。

MORE INFO!

地球を挟んで月と正反対の位置にあるルナツーは、元々はスペース・コロニー建造用に調達された鉱物資源衛星ユノーだった。だがスペースノイドの権益拡大を抑制すべく軍備増強を実施した連邦軍が、U.C.0060に軍事基地として改造。以後、宇宙における連邦軍の活動拠点となり、連邦軍艦隊の駐留基地として利用されたのだ。



元が資源衛星だけに岩盤は厚く、外部からの核攻撃にも耐えられる堅牢性を発揮。さらに内部には艦艇の整備・補給を行うドックやMS生産工場が置かれ、「星一号作戦」に参加したジムやボールはこの地で生産されたようである。

連邦軍の拠点、ルナツー

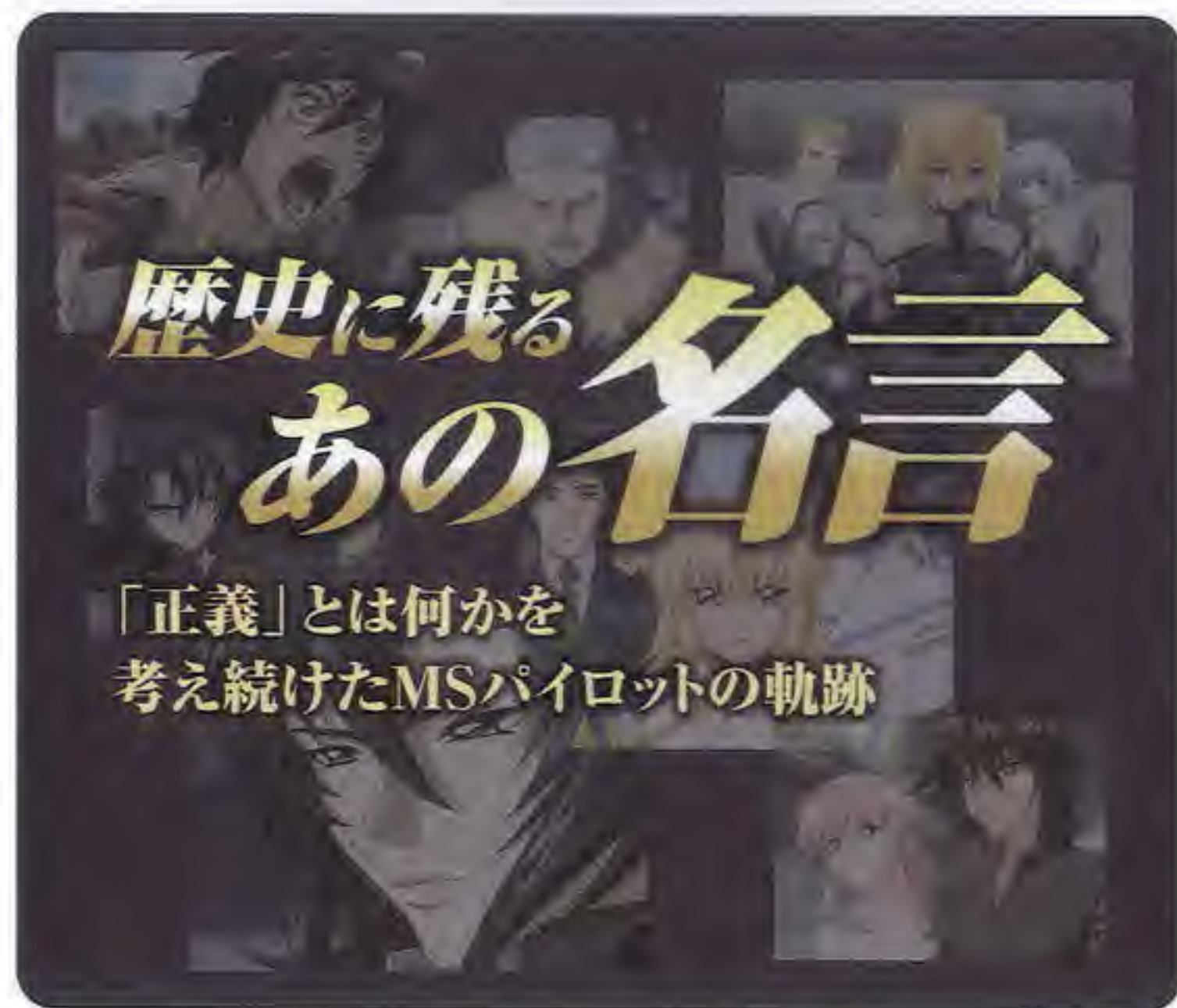


一年戦争終結後もルナツーは連邦軍基地として利用された。さらにU.C.0093頃には核弾頭貯蔵庫としても利用されていたようで、大量の核を備蓄していたとされる。

アスラン・ザラ編

Case of Athrun Zala

前大戦を終え、オーブに身を隠していた元ザフトのアスラン・ザラは、アーモリーワンで新たな戦いに遭遇し、再び戦場の最前線に立つ。



歴史に残るあの名言

「正義」とは何かを
考え続けたMSパイロットの軌跡

複数の勢力を渡り歩きながら己の居場所を探した前大戦の「英雄」



C.E.73

ミネルバ艦内

4話

……そんなものじゃない、俺は**アレックス**だよ



MSパイロットであるルナマリア・ホークからアスランであることを直接問われ、このときは否定したが、のちにアレックスの名は形骸化していった。

ザフトから独立部隊に参加し、C.E. (コスミック・イラ) 71の戦乱終結に大きく貢献したエースパイロット、アスラン・ザラ。彼は前大戦終結後もプラント本国へと戻らず、前大戦時に友好を深めたカガリ・ユラ・アスハをサポートするため、オーブ連合首長国で暮らしていたのである。素性を隠すため、アレックス・ディノの名で行動していたアスランは、アーモリーワンで行われたカガリとプラント最高評議会議長ギルバート・デュ

ランダルとの非公式会談にも同行。そこでファントムペインによるザフトの新型MS強奪事件に遭遇し、図らずもザフトの新鋭艦ミネルバに身を寄せることになる。プラントを離脱したとはいえ、アスランは英雄としてザフトでも知られており、ミネルバのクルーからもアスランであることを指摘される。だが、ザフトを離脱した身分であるアスランは、組織を抜けた立場上、それを否定するのだった。

C.E.73

インド洋

16話

戦争はヒーローごっこじゃない！



頬を張った後もまだ反論するシンに対し、もう一度頬を叩いて、叱責した。アスランはシンが己の力を過信することに危うさを感じていたのだった。

アスランは、デュランダル直々の要請を受けオーブからプラントへと帰還。フェイスとして自由に活動する権限を与えられた上で、ザフトに復隊する。だが、彼がミネルバのクルーすべてから受け入れられたかといえばそうではなかった。特に、インパルスガンダムのMSパイロットで、オーブ出身のシン・アスカは、前大戦時に両親と妹がオーブでの戦闘に巻き込まれて死亡したため、中立という理念から力を持たなかった国

家やカガリ、そしてアスランを信用していなかった。アスランは誤解を解くためシンと積極的にコミュニケーションを取ろうとするが、ふたりの関係はあまり改善しないまま、インド洋での地球連合軍との戦闘に突入する。そこでシンは、基地建設のために強制労働させられていた民間人を独断で救出する。アスランは、シンのこうしたヒーロー気取りの行動を危険視し、頬を強く張るのだった。

C.E.73

ディオキア

25話

……俺だってできれば**討ちたくはない。**
でもあれじゃ**戦うしかないじゃないか！**



デュランダルへの信頼もあり、地球軍とオーブ、アーケエンジェルを批判したアスラン。だが、キラからデュランダルへの不信を聞かされるのだった。

ザフトに復讐したアスランは、自身の帰国をサポートしてくれたデュランダルに信頼を置いていた。かつて暴走した父パトリック・ザラとは異なり、彼の対話を重視した友好的な振る舞いが世界を良い方向に導くと考えていたのである。一方で、かつてアスランと共闘したキラ・ヤマトらアーケエンジェル部隊はデュランダルに不信感を抱いていた。彼らはザフトと地球軍（とオーブの合同軍）の戦闘に介入し、即時の戦

闘停止を訴え続けたのである。アスランはキラの真意をはかるため、戦場ジャーナリストとなっていたミリアリア・ハウを通じて彼と連絡を取り、久々に再会を果たす。アスランはキラと同行したカガリに対し、アーケエンジェルの介入行動が戦乱を拡大させていると指摘。戦友となったハイネ・ヴェステンフルスが戦死したこともあってアスランは感情を抑え切れず、声を荒げてしまうのだった。

C.E.74

ジブラルタル基地周辺海域

37話

だが彼らの**言葉**は、やがて**世界のすべてを殺す！**



アスランは、MSパイロットとしてのシンの実力を認めていた。だからこそ、デュランダルにいいように使われる彼をなんとか救おうとしたのである。

キラとの再会以降、想像以上に過激化するデュランダルの政策に対し、アスラン自身にも懐疑的な感情が生まれる。そしてデュランダルがアーケエンジェルとフリーダムを敵として認定し、さらにシンのインパルスがフリーダムを撃破したことで、彼への反発は最高潮に達する。アスランはラクス・クラインの影武者ミーア・キャンベルから自身の暗殺計画を知り、ザフトからの脱走を決意。途中、脱走に協力したメイリン・ホー

クと共にグフイグナイトドで基地から離脱する。それを追撃してきたシンに対し、アスランは上記のような厳しい言葉を口にし、デュランダルの政策を強く批判。彼の“駒”として操られているシンを説得しようとしたのだった。アスランのあまりに真に迫った口調にシンも動揺を見せるが、デュランダルの忠実な部下、レイ・ザ・バレルによって制され、説得は失敗に終わってしまう……。

C.E.74

オーブ

44話

俺は……、そんなに**諦めが良くないっ！**



戦乱の中でオーブからザフト、そして独立部隊へと移ったアスラン。憎み続けた彼もようやく、自身の正義と理想とする世界を見定めたのである。

基地からの逃亡に用いたグフイグナイトドをシンのデスティニーガンダムによって撃破され、アスランとメイリンは命を落としたかに見えた。だが、ふたりは地球軍に潜入していたレドニル・キサカによって救出され、アーケエンジェルへと移送されたのである。意識を取り戻したアスランはキラやラクスと再会を果たし、デュランダルの暴走を止めるためにアーケエンジェルへの協力を決意する。さらにラクスから、デュランダル

が導入しようとしている人類管理政策「デスティニープラン」の全貌を知らされる。定められた遺伝子によってすべての役割を決められ、少しの自由も許されない世界。それに抗うことは果たして無駄なのか——そこでオーブとアスランたち独立部隊が出した結論は、デュランダルとの決戦であった。アスランの上記の言葉には、「デスティニープラン」に最後まで抵抗するという強い意志が込められたのである。

C.E.74

メサイア周辺

50話

なのに**未来まで殺す気か！ おまえは！！**



ザフトがネオジェネシス、地球軍がレクイエムを用いるなど、C.E.74の戦乱も壮絶な消耗戦へと突入していた。だがアスランは、キラたちと共に第三勢力として最後まで戦乱に介入し、その早期終結を目指したのである。アスランの前には、かつてミネルバで共闘したルナマリア、そしてシンが立ちはだかった。ルナマリアに対し圧倒的な強さを見せたアスランは、またしてもシンと一対一で対峙する。アスランは未だシンが

デュランダルに心酔し、操られていることにやり切れなさを覚え、その呪縛から逃れるように戦いの最中にも説得を続ける。「デスティニープラン」の危険性や閉塞感を意識せず、ただ怒りや憎しみに任せて戦うシンの姿は、アスランにとっても辛いものだったのである。そんなアスランの心がシンに伝わったのは、シンの乗機であるデスティニーを行動不能に追い込んでからであった。

CHARACTER'S MIND

アスランは、デュランダルに駒として扱われていたシンに同情を寄せていた。シン同様、かつて力を過信してキラを殺める直前までいった彼は、自身もデュランダルを信頼していた時期もあり、シンを救いたいとの想いは強かった。



アスランとシンがすべてのわだかまりを解消したのは、戦乱の終結後であった。

スティング・オークレー& アウル・ニーダ

Sting Oakley & Auel Neider

PROFILE

年齢 17歳(スティング:推定)/16歳(アウル:推定)
所属 地球連合軍(ファントムペイン)
階級 —
出身 不明
技能 MS操縦、破壊工作



新たな戦争の幕を上げた 地球連合軍のエクステンデッド

エクステンデッド——人道的に肉体・精神を改造された強化人間のことである。C.E.71の戦争においては生体CPUと呼ばれ、第2期GAT-Xシリーズの文字通り「パーツ」にされていた存在だが、投薬などの副作用によって精神が不安定であり、活動できる時間も限られていた。強化人間の研究は戦後も続けられ、精神の安定に一応の成功を見せたのがエクステンデッドである。スティング・オークレーとアウル・ニーダは、地球連合軍の特殊部隊であるファントムペインのエクステンデッドで、やはり生体CPUと同様に「道具」として扱われ、死んでいく。

C.E.73に同胞のステラ・ルーシェと3人でブランドのアーモリーワンを襲撃。ザフトの新型MSを奪取し、新たな戦争の呼び水となる。以降、地球連合軍の尖兵としてザフトのミネルバ隊と戦い続けた。



「勝たなきゃ負け」だと自分たちを捉えていたスティングは、「俺たちにとって重要なのは、この戦争の行く末とかじゃない」と、エクステンデッドの立場をよく理解していた。



ステラが地球連合軍の兵士に絡まれた際、味方に対しても躊躇なく銃を向けたアウル。彼らはファントムペインの指揮官であるネオ・ロアノークにしが従わなかった。

CHARACTER

その人格

スティングは3人のエクステンデッドの中でもアウル、ステラと比べて精神的に落ち着いた傾向を見せ、リーダー的な存在となっていた。アウルは戦闘をゲーム感覚で行い、無邪気な残酷さを持つ子供のような性格であった。



普段のスティングとアウルは年相応の姿を見せ、バスケットボールに興じる場面もあった。生体CPUと比べ格段に安定した精神を持つことがわかる。

RELATIONS



▲ スティング・オークレー



▲ アウル・ニーダ

「道具」として死んでいった
悲しき強化人間

MAIN MS



ZGMF-X24S カオスガンダム

ザフトセカンドステージシリーズの1機で、アーモリーワンからスティングが強奪。機動力に優れ、機動兵装ボイドを用いたオールレンジ攻撃によって敵機を翻弄した。



ZGMF-X31S アビスガンダム

ザフトセカンドステージシリーズの1機で、アーモリーワンからアウルが強奪したMS。水中での運用と砲撃力に優れた機体で、潜水艇のようなMA形態への変形が可能となっている。

関連ファイル

ZGMF-X24S カオスガンダム	DES-01-11
ZGMF-X31S アビスガンダム	DES-01-13
ネオ・ロアノーク	DES-02-13
ステラ・ルーシェ	DES-02-14
ロード・ジブリール	DES-02-16
強化人間と生体CPU	DES-03-25

FILE PREVIEW

DES-02-13 ネオ・ロアノーク



地球軍第81独立機動群「ファントムペイン」に所属する司令官。スティングとアウル、ステラという3人のエクステンデッドを管理し、戦場に送り込んだ。

ファントムペインに、 負けは許されねえ

(スティング・オークレール)

ファントムペインのエクステンデッドとして、アーモリーワンからザフトの新型MSを奪取したスティングとアウルは、追ってきたミネルバ隊を翻弄。逆にユニウスセブン落下後は、地球へと降りたミネルバ追撃の任に就く。本来、コーディネイターに対抗するために生み出された存在であるスティングとアウルは、実際ザフトに抗する十分な実力を持つ。しかし、ミネルバ隊を倒すには至らず、「負けないが勝てない」という戦況が続く。地球連合軍にとって道具でしかない彼らにとって、敵を倒すことでしか自分たちの存在意義を主張できず、戦果こそ評価のすべてと言えた。スティングとアウルは戦争の趨勢に関心がなく、ただ生きるために結果——ミネルバ隊の撃墜が必要だったのである。黒星が続く状況にスティングは危惧を抱き、アウルもまたそれを理解していたものの、依然ミネルバ隊は健在であり、彼らの立場は苦しいものとなっていく。そしてステラがザフトの捕虜となったことで彼女に関する記憶が抹消され、2人の管理はさらに厳しいものとなる。事態は悪化の一途を辿り、オーブ軍と合同で行ったザフトの挟撃作戦においてついにアウルがこの世を去ってしまう。その後スティングは再調整されたステラと共にベルリン侵攻に投入される。その戦いで撃墜されるが生き残り、量産されたデストロイガンダムを与えられてヘブンスベース防衛に配されるも、そこがスティングの最後の戦場となった。

足跡 戦いに彩られた短い人生

ロドニアのラボでエクステンデッドとして養成されたスティングたちは、アーモリーワンでのMS奪取を皮切りに新たな戦争へと投入されていく。奪取直後に起きた、一部のザフトによるユニウスセブンの落下テロでは、ミネルバ隊に攻撃を仕掛けるものの撤退。その映像を持ち帰り、地球連合軍に「ザフトの仕業」という宣戦布告の大義名分を与える要因を作る。その後は地球に降り、対ミネルバ隊の矢面に立って戦った。ジブラルタルの増援に向かうミネルバ隊とインド洋で激突し、ボスゴロフ級潜水艦の撃沈を果たして戦力を削ることに成功。だが、オーブとの共同戦線をはじめとした度重なる戦闘においてもミネルバ隊を押し切ることは叶わなかった。結局、クレタ沖の挟撃時、フリーダムの介入により混乱した戦場でアウルが戦死。次いでステラもベルリンの戦いで死に、最後に残ったスティングも戦いの中で討たれている。

能力 エクステンデッドの力

常人を遥かに凌ぐ身体能力を備えているスティングとアウルは、ステラを加えたわずか3人で新型MSの奪取に成功している。スティングはカオスガンダム、アウルはアビスガンダムを奪い、そのまま自機として搭乗。MSの操縦技術は並みのコーディネイターを大きく上回り、ザフトに大きな脅威となった。お互いに反目しがちだった生体CPUと違い、3人は協調して戦闘に臨んでいる。



強化された身体能力と訓練により、戦闘マシンとして造り上げられたエクステンデッドは、コーディネイター相手に生身で渡り合っている。



A



B



D



C

- ① 鋭い眼差しを持つ短髪が特徴的なスティング。精神的にも年長であり、アウルとステラをなだめる兄役であった。身長は172cm、体重は59kg、血液型はA型だったという。
- ② あどけない顔立ちに反して好戦的な性格だったアウル。白兵戦では二丁拳銃を得意としていた。身長は167cm、体重は57kg、血液型はO型だったという。
- ③ スティングとアウルのパイロットスーツ。デザインは共通だが、スティングは緑、アウルは青を基調とした専用のカラーリングが施されている。
- ④ スティングとアウルの普段着。アーモリーワンに潜入した際の私服で、返り血ひとつ浴びずに警備のコーディネイターを殺害し、新型MSを奪取した。



仲間の手引きに従い、潜入したアーモリーワンでザフトの新型MSを奪取。スティングはカオスガンダム、アウルはアビスガンダムに乗り込み、まもなく逃げおおせた。

ザフトのシン・アスカにステラを偶然救助された際は、スティングが機転を利かせて彼女の兄たちを装い、地球連合軍だと見破られることはなかった。



クレタ沖の海戦で、SEEDを発見したシンに討たれるアウル。記憶操作によって、スティングは彼の死どころか存在自体を忘れ去ってしまう。



アウルが母と思い込んでいた人物のいたラボがザフトに押えられたことから、彼は混乱を来す。アウルにとって「母」は精神を乱す禁句だったのだ。



アウルとステラの記憶を消されたスティングは、ヘブンスベースにおいてデストロイガンダムに乗り入れ、最後まで戦って死んでいく。

MORE INFO!

ラボでの生活

エクステンデッドの実験・養成施設が、ロドニアに建造されていたラボである。その秘匿性ゆえに名称はなく、地球連合軍の中でも一部の幹部しか知られていなかったようで、エクステンデッドに関するすべての事項を取り扱っていたという。スティングたちはこの場所で養育され、ファントムペインに配属されている。このラボはアクシデントで処分されずに残り、ミネルバ隊によって押収された。ここで子供たちに対し人為的な肉体・精神改造が施され、MS操縦や白兵戦など戦闘に関する様々な訓練が行われていたのである。



ラボのデータには、以前の戦争において生体CPUであったクロト・ブエルらしき人物も見られ、長きに亘って活動していた施設だとわかる。

■ロドニアのラボ



上図はラボの全景。左は幼き頃のスティングとアウル。同じ施設の同胞同士で命を懸けた模擬戦などを行い、戦闘に関するスキルを学ぶ。脱落した者は容赦なく淘汰された。



パラオ攻略戦

The Battle of PALAU

U.C.0096

ロンド・ベルとエコーズの 人質救出作戦

U.C.0096、ビスト財団は『ラプラスの箱』（以下『箱』）の「鍵」たるRX-0 ユニコーンガンダムの譲渡計画を進めていた。これにより、ユニコーンガンダムはネオ・ジオン残党『袖付き』の手に渡るはずだったが、計画を察知した地球連邦軍やアナハイム・エレクトロニクス社（AE）が介入した結果、AEのスペース・コロニー〈インダストリアル7〉が戦場となり、甚大な被害を出すに至った。

混乱の中、地球連邦軍特殊部隊エコーズと地球連邦宇宙軍外郭新興部隊ロンド・ベル隊は、ユニコーンガンダムと、結果的にそれを託された少年バナージ・リンクス（一連の計画を主導したビスト財団当主カーディアス・ビストの実子）を確保したうえ、〈インダストリアル7〉に潜入していたザビ家皇女ミネバ・ラオ・ザビの身柄を拘束した。しかし、地球連邦政府を転覆させるという『箱』を『袖付き』が諦めるはずもなく、暗礁宙域における戦いの結果、『袖付き』

はユニコーンガンダムとバナージを奪取。拠点の資源衛星パラオへと運び込んだのだった。

これを受けた地球連邦軍参謀本部は、〈インダストリアル7〉に投入したロンド・ベル隊所属艦ネル・アーガマとエコーズに対し、ユニコーンガンダムの奪回を命じた。命令に際して参謀本部は、『袖付き』との戦闘で消耗したネル・アーガマに補給を行っている。MS数機の提供とエコーズ1部隊の追加である。

エコーズ2部隊の同時投入は初めてのケースであり、補給されたMSも高性能ではあったが、艦隊の増派はなかった。拠点攻略を余儀なくされるユニコーンガンダム奪回は、ロンド・ベル隊の全艦艇を投入した包囲作戦を採るべきだったが、参謀本部はネル・アーガマ単艦での作戦を指示したのだ。

この背景には参謀本部の保身がある。参謀本部としては、事態の露見を防ぎつつ「最善の手を尽くした」とのパフォーマンスを行うことで、責任追求を回避する方針だった。『袖付き』に『箱』を奪われたとしても、事実が露見する頃には参謀本部の要職は入れ替わっており、責任を問われる可能性はないとの判断だったようだ。ネル・アーガマとエコーズ2部隊は、参謀本部の保身のための人身御供だったのである。

ネル・アーガマの乗組員やエコーズも、参謀本部の意図には気付いており、士気は低くならざるを得なかった。その時、エコーズのダグザ・マッケール中佐は、作戦を人質（バナージ）救出作戦とすること、ネル・アーガマのハイパー・メガ粒子砲を用いた「入り江」の封鎖戦術を提示し、事態解決の糸口とした。マッケール中佐の提言を容れたネル・アーガマは、単艦でパラオ攻略作戦を実施したのである。

（“ネームレス” ジョン・スミス U.C.0155）

関連ファイル

RX-0 ユニコーンガンダム	UC-01-01
『袖付き』のMS①	UC-01-16
バナージ・リンクス	UC-02-01
フル・フロンタル	UC-02-13
資源衛星パラオの戦い	UC-03-08
ネオ・ジオン（『袖付き』）	UC-03-13
資源衛星パラオ	UC-03-16

FILE PREVIEW

UC-03-16 資源衛星パラオ



『袖付き』が拠点としていた資源衛星。複数の岩塊をシャフトで接続して建造されている。内部には坑道が張り巡らされ、円筒状の重力ブロックが居住区となっており、約3万人が居住している。

奪回作戦を看過した『袖付き』の意図

『袖付き』のフル・フロンタル大佐は地球連邦軍によるパラオ攻略を予想し、旗艦レウルーラを中心とした主戦力をパラオから退避させた。だが、積極的な迎撃態勢は取らず、大半の要員を事実上切り捨てた。この背景には、バナーズ以外ではラプラス・プロ

グラムやNT-Dを起動できないユニコーンガンダムの特性がある。つまりバナーズのみが『箱』の位置を開示できるのだが、彼が『袖付き』に非協力的である以上、『箱』の情報を得るためにもユニコーンガンダムをネェル・アーガマに戻す必要があったのだ。



Illustration by AKIO UNUMA

1 ユニコーン奪回命令

ユニコーンガンダムの移送先が『袖付き』の拠点、資源衛星パラオだと推定した地球連邦軍参謀本部は、ネェル・アーガマとエコーズに奪回作戦を命令した。討ち死にを要求されていると考えたネェル・アーガマの士気は上がらなかったが、バナーズの救出を目的とすること、また、ハイパー・メガ粒子砲による港湾封鎖戦術の採択により、作戦の実施に動いた。『袖付き』では、バナーズ以外での『箱』の情報開示が不可能と判明したため、ユニコーンガンダムにサイコ・モニターを設置し、泳がせることとした。



パラオに進行されたバナーズはフロンタルとの会見後、隊員宅に預けられた。ネェル・アーガマではエコーズ主導でのバナーズ救出作戦が決定。

2 パラオ攻略戦開始

ネェル・アーガマは、エコーズによる潜入破壊工作でパラオの各小惑星を繋ぐシャフトを爆破した後、ハイパー・メガ粒子砲で小惑星を押し、小惑星間の港湾を封鎖。その隙にバナーズとユニコーンガンダムを奪回する作戦に出た。作戦にあたり、バナーズにはスパイを通じて合流ポイントを伝えている。作戦は想定通りに進み、港湾の封鎖には成功したが、攻撃を予測したフロンタル大佐は主力艦隊をパラオの外に退避させており、スパイを利用してバナーズをユニコーンガンダムに誘導してもいた。



作戦は、ほぼネェル・アーガマ側が想定した通りに進展。事前情報を与えられなかった『袖付き』の大半は、混乱しながらもMSで迎撃に出た。

3 ユニコーンガンダム回収

エコーズはバナーズとユニコーンガンダムを別々に回収するつもりだったが、フロンタルの誘導によりバナーズ自身がユニコーンガンダムに搭乗してパラオを離脱した。戦闘はネェル・アーガマに不利な状況となっていたが、NT-D発動を求めたフロンタルはMS部隊を後退させ、ユニコーンガンダムと強化人間マリーダ・クルスのNT専用MSクシャトリヤを交戦させた。結果的にNT-Dは発動し、クシャトリヤは大破。戦闘後、両機はネェル・アーガマに回収されたものの、新たな指定座標は開示されなかった。



ユニコーンガンダムの回収後、ネェル・アーガマは離脱。事態の打開を望むミネバは、リディと共に地球へ降下した。

4 〈ラプラス〉の戦闘

ネェル・アーガマは、〈インダストリアル7〉戦で開示された指定座標である、首相官邸〈ラプラス〉の残骸の調査と、AEのアルベルトおよびマリーダの地球降下のため地球近海へ移動。『袖付き』のガランシェールはマリーダ救出のため、フロンタル隊はNT-D発動による新座標開示のため、ネェル・アーガマを追撃した。交戦の結果、ユニコーンガンダムはNT-Dを発動し、新座標の豪州トintonを開示。マリーダ救出に失敗したガランシェールは、地球に落下するユニコーンガンダムを回収しつつ地球へ降下した。



〈ラプラス〉でフロンタル大佐と交戦したユニコーンガンダムは、ダグザの死を受けてNT-Dを発動。戦闘後、ユニコーンガンダムは地球に落下した。

MORE INFO!

パラオの戦力

『袖付き』の拠点パラオには、多数のMSと宇宙艦艇が配備されていた。多くは第一次ネオ・ジオン戦争以前の旧式兵器であり、パラオ戦でフロンタル大佐が切り捨てた戦力も旧式がほとんどだった。それでも総戦力は、ネェル・アーガマ単独での対処が難しいほどの規模に達していた。



パラオ配備機の中でも特に旧式のMS-21Cドラツェ。一年戦争直後、ジオン公国軍残党が開発したパーツ流用機だ。



AMS-129 ギラ・ズール
AE製のMSで、ギラ・ドーガの後継機。『袖付き』の最新主力機で高性能だが、パラオ戦参加機は少なかった。



AMX-006 ガザD
第一次ネオ・ジオン戦争時のネオ・ジオンの主力機。『袖付き』では旧式だが、その高い運用性から重宝された。



ムサイ
一年戦争時のジオン公国軍の主力艦。『袖付き』も少数保有していたが、パラオ戦の港湾封鎖時に大破した。



ヘブンスベース攻略作戦「ラグナロク」

The History of Warfare in C.E.

コスミック・イラの戦史解説

8機もの超高性能機が 激突した大規模戦闘

C.E.74、地球連合軍の拠点ヘブンスベースにおいて大規模な戦闘が発生した。ロゴス幹部の引渡しを要求してヘブンスベースに迫ったザフトおよび対ロゴス同盟軍に対し、ヘブンスベースに立て籠もった地球連合軍が奇襲を仕掛けたのだ。これを受けたザフトが「オペレーション・ラグナロク」を発動したことで、両軍は戦闘状態に入ったのだ。

ヘブンスベース戦の特徴のひとつは、両軍合わせて8機もの超高性能機動兵器が投入され、交戦した点にある。ザフトのZGMF-X42S デスティニー、ZGMF-X666S レジェンド、ZGMF-X56S インパルス、地球連合軍のGFAS-X1 デストロイ5機が該当する（他にも、陽電子リフレクター装備の地球連合軍MA、TS-MB1B ユークリッドが複数機確認された）。

それまでも、各時代のハイエンド機動兵器やフラッグシップマシンが複数機投入された戦闘はあった。3機のニュートロンジャマーキャンセラー／核エンジ

ン搭載MSと多数の第2期GAT-Xシリーズが投入された第2次ヤキン・ドゥーエ攻防戦、ZGMF-X10A フリーダムとセカンドステージシリーズ5機が参加したダーダネルス海峡戦などが知られる。

その中でもヘブンスベース戦が特殊と見なされるのは、両軍の超高性能機動兵器が一堂に会して潰し合った点にある。ザフト側の3機と地球連合軍の5機が、極めて狭い戦域の中で交戦したのだ。

それ以前も、比較的小規模な戦闘では似たような状況が発生したが、各軍が主力をぶつけ合う大規模戦闘での事例は少なかった。戦域が広大となる大規模戦闘では、各超高性能機が遊撃機的役割を担うほか、戦術目標が分散する傾向にあるため、超高性能機同士の集団戦は起こり難かったのだろう。

ヘブンスベース戦の場合、投入された戦力規模に反して戦域が狭かった点も理由として挙げられるが、少数の超高性能機が戦闘の帰趨を決する性能を持っていた点が大きい。単機で都市を焼き払い、数十機のMSをも圧倒する戦闘力を持つデストロイを阻止するには、ザフト側も超高性能機で対抗するしかなかったのである。同様の状況は、後のダイダロス基地戦でも発生することとなった。

ヘブンスベース戦のもうひとつの特徴として、広域破壊兵器が戦術レベルの目的で使用された点が挙げられる。ヘブンスベースの防空を司る対空掃射砲「ニーベルング」がそれで、軌道上から降下したザフトMS部隊を一撃で殲滅した。海／地上／低空の敵機にはデストロイを中心としたMS・MA隊で対応し、ザフトが得意とする降下戦術をニーベルングで封じるとい

う作戦だったが、地球連合軍は敗れることになった。

(カイク・アッパ C.E.74)

関連ファイル

ZGMF-X56S インパルスガンダム	DES-01-01
ZGMF-X42S デスティニーガンダム	DES-01-08
ZGMF-X666S レジェンドガンダム	DES-01-09
GFAS-X1 デストロイガンダム	DES-01-14
ロード・ジブリー	DES-02-16
ヘブンスベース攻略戦	DES-03-11
C.E.73の超兵器と軍事拠点	DES-03-26

FILE PREVIEW

DES-03-26 C.E.73の超兵器と軍事拠点



C.E.71の戦争以降も地球や宇宙には新たな軍事拠点が建設された。その中には、対空掃射砲「ニーベルング」のように大規模破壊兵器を備えた拠点もあり、再発した戦争で使用され、敵に甚大な被害を与えた。

Illustration by KEISUKE SASAKI

ザフトの目的

ザフトと地球の対ロコス同盟軍の目的は、ヘブンスベースに逃げ込んだロード・ジブリールをはじめとするロコス幹部の身柄確保だった。戦闘自体は目的ではなく、ヘブンスベースの周辺海域と軌道上に部隊を展開し、身柄引渡しを要求した。戦闘の発生は地球連合軍の奇襲を契機としており、ザフトはやむを得ず応戦する形となった。



ザフトおよび対ロコス同盟軍の最高指揮官であるキルバート・デュランダル最高評議会議長、前線指揮を執った。

ジブラルタル基地に集結したザフトと対ロコスの地球各国軍が、ヘブンスベースの周辺海域に展開した。

地球連合軍の目的

地球連合軍の目的は、ヘブンスベースに派遣されたザフトと対ロコス同盟軍の殲滅である。戦闘後、反ロコスに傾いた世界を是正すべく、反撃に転じる意図があった。作戦全般を取り仕切っていたのは、ロコス幹部兼ブルーコスモス指導者であり、地球連合軍をコントロール下に置いていたロード・ジブリールだった。



ヘブンスベースに逃げ込み防衛態勢を取らせたロード・ジブリール。他にも4人のロコス幹部が立て籠もっていた。

ヘブンスベースの高級将校はブルーコスモスの同調者が多かったようで、指揮権のないジブリールに従った。



ザフトの戦術と装備

要求が容れられなかった場合、艦砲射撃の後、艦艇および軌道上からのMS投入、基地制圧を実施するつもりだったようだ。地球連合軍の奇襲、デストロイとニーベルングの存在で戦術は変更を余儀なくされたが、デスティニーらの呐喊で不利な戦況を覆した。



想定外の事態の連続でザフトの戦術は混乱。だが、3機のハイエンドMSの活躍でデストロイの封じ込めと進路の確保に成功。



ZGMF-X42S デスティニー
ハイパーデュートリオン搭載の旗艦MS。万能機で格闘能力と機動性に特化する。1機のみ参加。



ZGMF-X666S レジェンド
デスティニーと同時期に開発されたハイパーデュートリオン機。ドラグーンシステムを搭載。1機が投入された。

地球連合軍の戦術と装備

地球連合軍はロコス幹部の引渡し要求に応じるつもりはなく、ザフトから与えられた回答猶予時間を使って戦闘準備を進めた。準備が整い次第、奇襲を実施し、ニーベルングでザフト降下部隊を、5機のデストロイで海上の敵部隊を殲滅する予定だった。



MSはウィンダムやダガーなどのストライカーバック対応機だけでなく、水中用のフォビドゥンヴォークスも配備されていた。



GFAS-X1 デストロイ
生体CPUが制御する巨大機動兵器。無数の火器と陽電子リフレクターを備え、単機で都市規模の目標を殲滅可能。



TS-MB1B ユークリッド
全長50mを超える大型MA。近接戦闘こそ向かないが、大火力かつ陽電子リフレクターによる高い防御力を有する。

ヘブンスベース戦の推移

ヘブンスベースは、自爆したJOSH-Aに替わる地球連合軍の中核拠点で、強固な防衛体制を構築していた。ザフトの目的はロコス幹部の身柄確保であり、ヘブンスベースを攻略する必要はなかったが、地球連合軍はザフト殲滅の意図を持っていた。そこで地球連合

軍は、ザフトが指定した猶予時間を利用して戦闘準備を進めたうえ、回答期限前に戦闘を開始した。奇襲戦術、5機のデストロイ、対空掃射砲「ニーベルング」により優位に立った地球連合軍だったが、戦力の中心であるデストロイを失い、降伏を余儀なくされた。

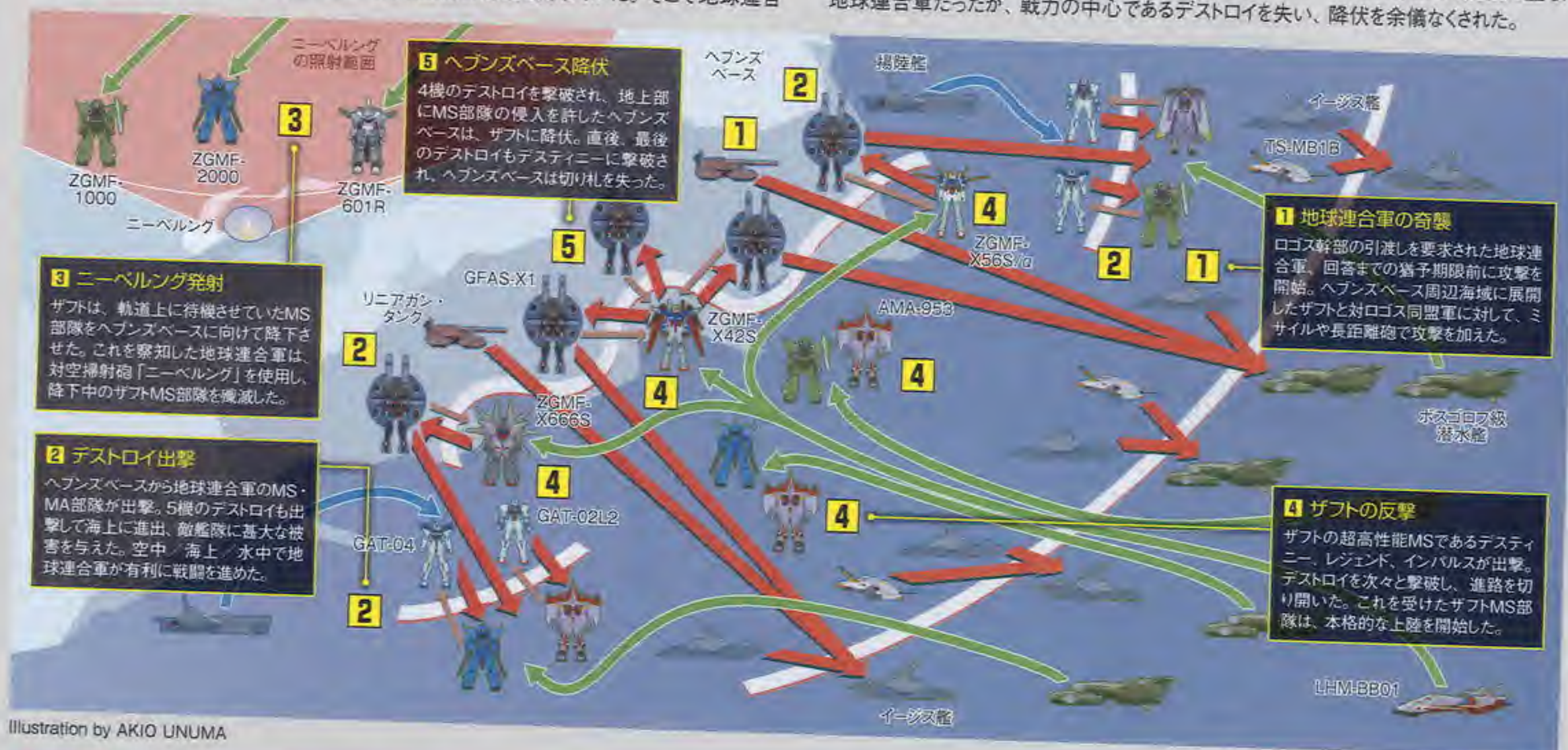


Illustration by AKIO UNUMA

戦闘の結果

ヘブンスベースの降伏によって、戦闘は終結した。ザフトと対ロコス同盟軍の勝利だったが、ザフトは目的を完遂できなかった。ヘブンスベースに逃げ込んだ5人のロコス幹部のうち、4人は拘束したもののロード・ジブリールを取り逃がしてしまった。



戦闘終結直前、敗北を悟ったロード・ジブリールは潜水艦でヘブンスベースから脱出した。向かった先はオーブだった。



ザフト側の成否

- ・ロコス幹部の拘束
→ 未達成(ロード・ジブリールの拘束できず)
- ・ヘブンスベースの攻略
→ 成功



地球連合軍側の成否

- ・ザフト、対ロコス同盟軍の殲滅
→ 失敗
- ・ロコス幹部の保護
→ 半ば成功(ロード・ジブリールのみ脱出)

MORE INFO!

対空掃射砲「ニーベルング」

5機のデストロイと共に、ヘブンスベース防衛の要となった広域破壊兵器が対空掃射砲「ニーベルング」である。ヘブンスベース上空を完全にフォロー可能な広角レーザー砲で、大気圏外からの空挺作戦に対抗するために設置された。



ヘブンスベースの上空を広範囲に亘って攻撃する。効果範囲内の目標は、MSであっても一撃で破壊される。



ニーベルング
棒状の発振器と無数のミラーから成る直径10kmの巨大レーザー砲。普段は小山に擬装された。



ルナツー

Geography of U.C.

宇宙世紀の地理

宇宙最大の地球連邦軍の軍事拠点

ラグランジュポイント3(L3)に位置する地球連邦軍の小惑星基地にして、地球連邦宇宙軍の拠点がルナツーである。宇宙空間に置かれた軍事基地としては最大のものとされ、最大直径は180kmに及ぶ。

島3号型コロニーの全長が32~45km、かつてソロモンと呼ばれた宇宙要塞コンペイトウの全幅が20kmであることを考えても、その巨大さが理解できる。地球を含めれば、全幅280kmのジャブローが最大の軍事基地と思われるが、体積ではルナツーが上回る可能性もある。ルナツー=LUNAII、つまり「第2の月」の名も、月軌道内では月に次いで巨大な天体とされたサイズから付けられたのかもしれない。

主要サイトが存在するL1、L2、L4、L5から離れ、月の正反対に位置するルナツーは立地に恵まれていない。それにも拘らず重視されているのは宇宙最大の規模だけでなく、その歴史と実績も関係している。

ルナツーの前身は、U.C.0045に月軌道に固定され

た小惑星ユノーである。資源小惑星のユノーがルナツーに改名された時期は不明だが、U.C.0060に軍事基地化された時点ですでにルナツーと呼ばれていたと見られる。ルナツーの軍事基地化は、地球連邦軍の60年代軍備増強計画の一環として進められた。

ルナツーがL3に移されたのは、U.C.0070のことである。サイト7建設のためだが必ずしも平和利用ではなく、ルナツーとサイト7を組み合わせたL3の軍事拠点化が検討されていたと見て間違いないだろう。

この時期、小惑星を利用した地球連邦軍の軍事拠点はルナツーしか確認されておらず、ルナツー以外の地球連邦宇宙軍は各サイトに分散していた。ルナツーから、遠隔地にある各サイトの駐留部隊を操作する方針だったようである。

主要サイト群から離れたルナツーの立地が、有利に働いたのが一年戦争だった。一年戦争の緒戦で各サイトの駐留部隊を失った地球連邦宇宙軍は、ほぼルナツーのみで宇宙の戦線を維持しなければならなくなった。地球連邦軍にとっての幸運は、ジオン公国軍にルナツーを攻略する戦力的余裕がなかったことである。ジオン公国軍の根拠地サイド3から遠い立地が、この時ばかりは役立ったのだ。ジオン公国

軍がルナツーを重視しなかった点も有利に働いた。

結果、ルナツーは地球連邦宇宙軍を維持し、基地内工廠で兵器の製造も行った。ビンソン計画での宇宙艦艇建造、主力MSジムの製造や各種MSの改造などがそれで、地球連邦軍の反撃準備を担った。

グリプス戦役時にはグリプスの陰に隠れることもあったが、一年戦争後もルナツーの重要性は変わらず、地球連邦宇宙軍の中核として利用されている。

(ショウ・ドウ U.C.0096)

関連ファイル

ルナツーの地球連邦軍士官(ワッケイン 他)	FG-02-16
大気圏突入戦	FG-03-06
RX計画とV作戦	FG-03-15
一年戦争期の世界	FG-03-46
一年戦争	FG-03-71

FILE PREVIEW

FG-03-46 一年戦争期の世界



一年戦争は地球圏に多大な被害を与えた。一週間戦争におけるジオン公国軍のサイド2などの攻撃、そしてコロニー落としによって、人的な被害だけではなく、地球環境も大きなダメージを受けた。

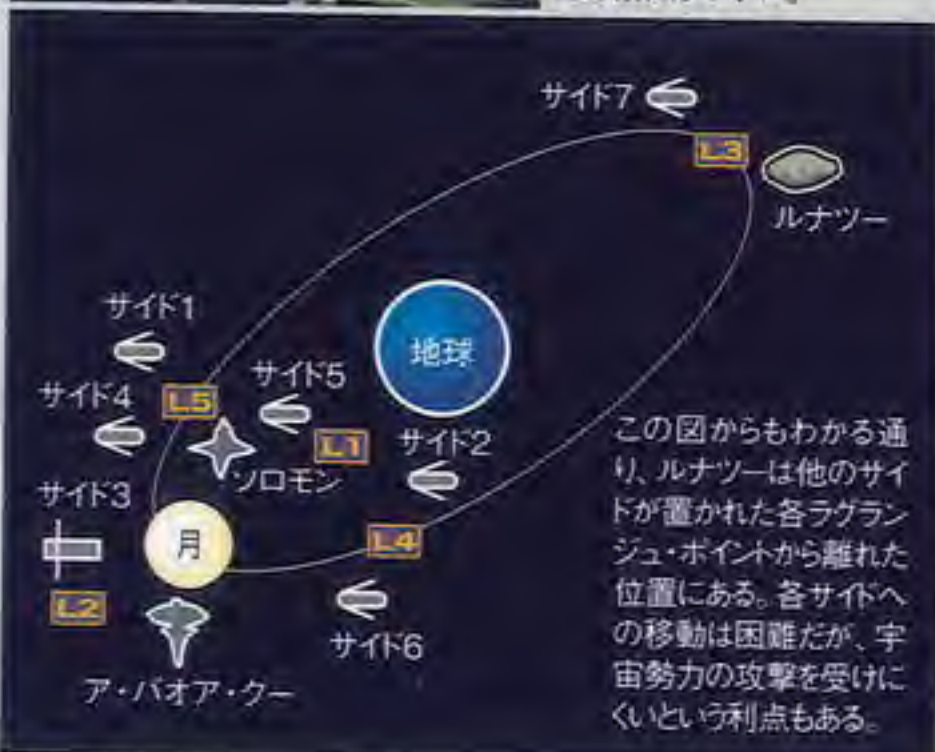
Illustration by TOMOTAKE KINOSHITA

ルナツーの立地

ルナツーは月軌道上のL3に位置する（前身のユノーは小惑星帯から地球圏に運び込まれた）。月とは地球を挟んで正反対に位置するため、月やサイド1～6へのアクセスには適さない。それでも、各サイドには地球連邦宇宙軍の駐留部隊が配置されているため、実務面で問題は少ない。なお、サイド7はルナツーからの資源供給で建造された。



ルナツー方面軍が置かれたルナツーは、地球連邦宇宙軍の中核拠点。月や主要サイドから遠いため宇宙勢力からの攻撃を受けにくく、向かってくる敵艦隊も察知しやすい。



この図からもわかる通り、ルナツーは他のサイドが置かれた各ラグランジュ・ポイントから離れた位置にある。各サイドへの移動は困難だが、宇宙勢力の攻撃を受けにくいという利点もある。

ルナツーの歴史

ルナツーの歴史は、宇宙開発用の資源供給源として地球圏に移送された小惑星ユノーに始まる。その後、資源小惑星の機能を維持しつつ地球連邦宇宙軍の中核拠点となり、地球連邦政府の宇宙政策を支えた。一年戦争以降の紛争では主に後方拠点として利用されたが、一年戦争や「シャアの反乱」ではネオ・ジオン艦隊の攻撃を受けた。

U.C.0045 小惑星ユノー、月軌道に固定

小惑星帯から移送された小惑星ユノーが、月軌道に固定された。宇宙開発の資源供給源として使用するため、スペース・コロニーの建造などに利用されたと考えられる。

U.C.0060 ルナツーの軍事基地化

60年代軍備増強計画の一環として軍事基地化された。資源採掘で形成された内部空洞や坑道を利用して基地化され、外部には監視施設や防御火器が設置された。

U.C.0070.12 月の反対側の軌道へ移動

サイド7建設のため、月の反対側の軌道（L3）に移動された。サイド7は、ルナツーと連携しての軍事利用も想定されていた。以後、ルナツーはL3に固定され続けている。

U.C.0079.01 ルウム戦役の後方拠点

一週間戦争では活躍の場がなかったルナツーだが、ルウム戦役直前、レビル将軍指揮の連邦軍第1連合艦隊が出港した。ルウム戦役後、残存艦隊が帰還したようである。

U.C.0079.12 ソロモン攻略戦の後方拠点

地球連邦宇宙軍の数少ない拠点となったルナツーでは、宇宙艦艇やMSの建造が進んだ。ソロモン攻略戦直前には、連邦軍第2連合艦隊や第3艦隊などがルナツーから出港した。

U.C.0087.06.08 グリプス、ルナツー宙域に固定

ティターンズの拠点グリプスが分割され、ルナツー宙域に固定。グリプス1、グリプス2、「ゼダンの門」と共に、ルナツーはティターンズの拠点として運用された。

U.C.0093.03.12 ネオ・ジオンに奇襲を受ける

武装解除を偽装したネオ・ジオン艦隊の奇襲を受け、基地施設と艦艇に少なからぬ被害を出した。この際、ルナツーが貯蔵していた核兵器が、ネオ・ジオンに奪われた。

ルナツーの施設

一年戦争の大半の期間、ほぼ単独で地球連邦宇宙軍を維持したことから理解できるように、ルナツーは軍事基地とコロニーの機能を兼ね備えている。宇宙艦艇やMSの建造能力を持つ点、核兵器貯蔵施設を備える点、ルナツー自体が巨大なため極めて大きな収容能力を持つ点などが、特徴として挙げられる。なお、ニュータイプ研究所は確認されていない。

内部施設

港湾施設

ルナツーには大型の港湾が複数設置されている。ソロモン攻略戦の直前、10個近い宇宙艦隊が出港したことから、港湾施設の巨大さが推測できる。出入口のみ外部に露出した、一般的宇宙港が多いようである。



居住区 司令部



ルナツーの規模に反して、司令部（司令室）は比較的小さかったようだ。居住区画は回転重力ブロックであり、宇宙での長期勤務に適する。



外部施設

迎撃用対空砲台

ルナツーの表面には防御火器群が設置された。一年戦争時は戦艦の主砲を上回る巨大砲台が目立ち、宇宙艦艇の接近を警戒していたことが分かる。対MS用の火器は少数だったと考えられる。



監視所

レーダーサイトだけでなく、目視による索敵を想定した監視所も設置された。元々は、レーダーサイトを潜り潜って接近する潜入工作員や、小天体などに偽装した敵機を発見するためのものだろう。



各時代のルナツー

U.C.0060に基地化されたルナツーは、各時代の紛争で重要な役割を演じた。宇宙に唯一残された大規模基地として地球連邦宇宙軍を支え、反攻の足掛かりとなった一年戦争時のルナツーは有名だが、以後の戦乱でも重要拠点だったのである。L3という立地の都合上、後方拠点としての性格が強かったが、主要な紛争ではよく名前が挙がる。

ワッケイン

一年戦争時のルナツー司令で第3艦隊司令。階級は少佐。消耗を避けつつ、戦力不足のルナツーを取りまとめた。



一年戦争時

緒戦で地球連邦宇宙軍が壊滅的打撃を受けた後、サイド3から離れた立地を利用して残存戦力を温存。宇宙艦隊の再編、MSの製造などの戦力増強に貢献し、戦争末期には反攻拠点となった。



グリプス戦役時

グリプス（サイド7・2バンチ）の近傍に位置することもあり、ティターンズの影響下に置かれた。グリプス1および2、「ゼダンの門」と共にティターンズの大規模拠点群を構成した。



シャアの反乱時

ネオ・ジオンの武装解除宙域とされたが、奇襲により大打撃を受けたうえ、核兵器を強奪されてしまった。戦後に修理され、再び地球連邦宇宙軍の中核拠点として使われた。



ルナツーで開発、製造された兵器

一年戦争時

MS

ジャブローと並行してジムを製造。ジム・スナイパーカスタム、ジム・ライトアーマーなどの改造も担当したと言われる。



RX-78-3 G-3ガンダム

宇宙艦艇

ビンソン計画を受け、ジャブローと共に宇宙艦艇を建造した。コロブス級の建造は、ルナツーが主だったようだ。



コロブス級宇宙輸送艦

グリプス戦役時

MS

型式番号の数字部分、上二桁が「11」のMSはルナツーで開発された。完全新設計機は少なく、改造機が目立つ。



RX-110 ガプスレイ



量産仕様機ではRMS-117 ガルバルディβ（上）とRMS-119 アイザック（下）が有名。共に原型機はルナツー製ではない。

機動戦士ガンダムUC

TIMELINE

U.C.0096

フル・フロンタルとの接見

ネル・アーガマと『袖付き』の間で翻弄されるオードリー・バーン(ミネバ・ザビ)を守るため、フル・フロンタルとの対決に挑むバナージ・リンクス。しかし「赤い彗星の再来」の実力はバナージの想像以上であり、ユニコーンガンダムをもってしても苦戦は避けられなかった。

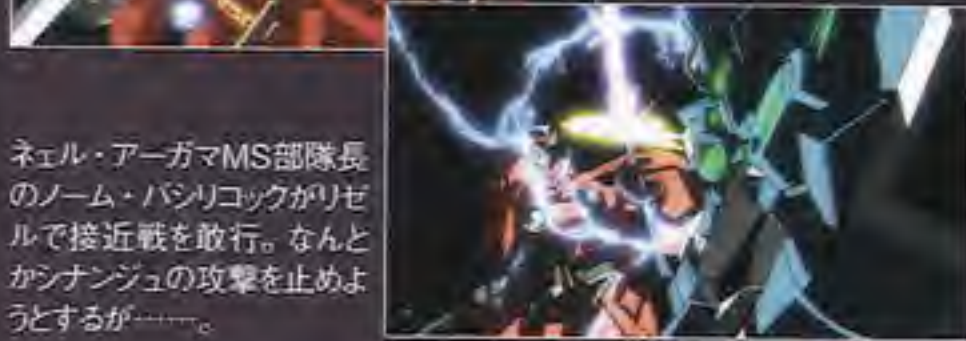
U.C.0096

バナージ、シナンジュと交戦

オードリーを人質に『袖付き』の追撃から逃れようとするダグザ・マククルの思惑は裏目に出てしまい、交渉を跳ねつけたフル・フロンタルはネル・アーガマへの攻撃を宣言する。このままではオードリーを守ることができない——危機を前にして座して待つことを良しとしないバナージ・リンクスは、自ら討って出ることにした。以前の戦闘でユニ



ダグザの脅しを毛ほども気に掛けず、フル・フロンタルはネル・アーガマへの攻撃を再開した。

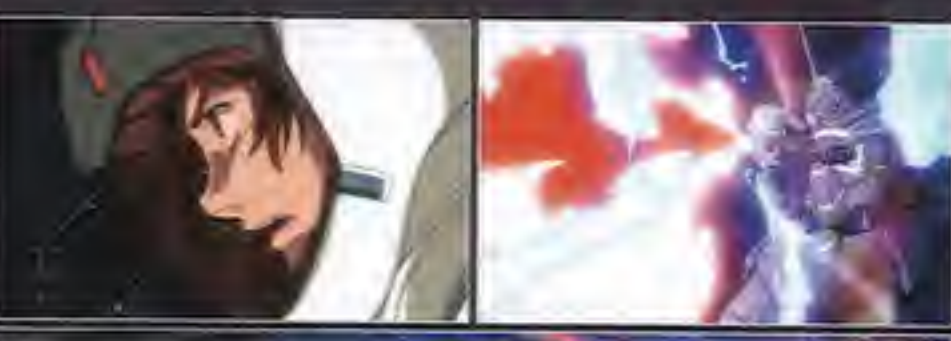


ネル・アーガマMS部隊長のノーム・バシリコックがリゼルで接近戦を敢行。なんとかシナンジュの攻撃を止めようとするが……。



フル・フロンタルはまるで子供を相手にするようにノームを圧倒。ビーム・サーベルの一振りでリゼルに致命傷を与えてみせた。

コーンガンダムが示した能力(特にデストロイモードでの圧倒的な戦闘能力)ならば、フル・フロンタルを足止めさせられるかもしれない。その間にネル・アーガマとオードリーは安全な宙域に退避できるだろう……。それは儚い希望であったかもしれない。それでもバナージは一握りの可能性を信じ、戦場へと身を躍らせたのだった。



ネル・アーガマを発進したバナージは、リゼルと交戦するシナンジュを発見。ビーム・マグナムによるロングレンジからの狙撃を試みた。その威力は絶大で、火線が擦過したキラ・ズールを誘爆させるほどだった。

U.C.0096

バナージ、『袖付き』の捕虜となる

シナンジュに迫る勢いでユニコーンガンダムを駆るバナージだが、やはりフル・フロンタルの技量は尋常ではなく、たちまち窮地に追い込まれてしまう。だがバナージは諦めようとせず、それに応えるかのようにNT-Dシステムが起動。デストロイモードに移行したユニコーンガンダムは、直前とは打って変わった機動性を発揮してシナンジュに攻撃



射撃戦は不利と見たフル・フロンタルは巧みな操縦でユニコーンガンダムに接近。格闘戦でビーム・マグナムを封じようとする。



するとユニコーンガンダムがデストロイモードに移行。シナンジュを上回る機動性を発揮して、フル・フロンタルを圧倒しに掛かる。



さらにリディが援護に加わり、さしものフル・フロンタルも撤退に掛かる。これを好機と見たバナージは追撃しようとするが……。

を加えた。さらに連邦軍パイロットのリディ・マーセナスが加勢したことで、状況不利と見たフル・フロンタルは撤退の素振りを見せる。しかし、これは奸智に長けたフル・フロンタルのフェイクだった。シナンジュの追撃を仕掛けるユニコーンガンダムの前に、〈インダストリアル7〉で交戦した大型MS クシャトリヤが姿を現したのである。



突如、岩塊の陰から出現したクシャトリヤがユニコーンガンダムを拘束。コクピット周辺に激しい一撃を受けたバナージは、デストロイモードから受ける肉体的、精神的負荷もあって、気を失ってしまった。

U.C.0096

バナージ、ユニコーンガンダムでネル・アーガマを発進。

バナージ、『袖付き』MS部隊と交戦。キラ・ズールを撃破する。

バナージ、シナンジュと交戦。

バナージ、フル・フロンタルの技量に苦戦を強いられる。

ユニコーンガンダム、デストロイモードに移行。シナンジュとの戦闘を継続。

リディ、バナージの援護に入る。

シナンジュの追撃を試みるユニコーンガンダムの前にクシャトリヤが出現。

バナージ、『袖付き』の捕虜となる。

MORE INFO!

デストロイモードの負荷

デストロイモードに移行したユニコーンガンダムは圧倒的な機動性能のほかに、サイコミュがパイロットの意思を操縦系に直接反映するため、瞬間的な加速度は殺人的なレベルに及ぶ。特に20メートルものMSが人間と同様の動作をトレースした場合、発生する加速度は人体の限界を簡単に超えてしまうだろう。そのためバナージが着用するパイロットスーツには耐G用薬剤投与システム(DDS)が用意されていた。これはパイロットに薬剤を強制注入し、循環器系を活性化することで血流の滞りを防ぐものである。とはいえ薬剤の多用は別種の肉体的負担となり、さらにサイコミュはパイロットの精神に負荷を与えることで知られる。そのため絶大な戦闘能力を発揮するデストロイモードであるが、戦闘継続時間は約5分程度といったところのようだ。



パイロットスーツには加速に応じて加減圧を行う機構が付与され、血流障害を回避する手段となった。

さらにバナージは幼少時から特殊訓練を受けており、その結果、常人を上回る耐G能力を有していたようである。



NEXT PAGE

U.C.0096

リディ、オードリーと会見する

脱出に成功したネェル・アーガマだが、ユニコーンガンダムが「袖付き」に奪われたことで、艦内は重苦しい空気に包まれていた。そんな折、独房に収監されたオードリーにリディが接触。艦を守ったバナージが敵の手に落ちた一



自分より年下の少女から政治取引の存在を指摘されたリディは、これまでの自らの無知を恥じると同時に、事件の真相を希求するようになる。

方、のうのうと過ごしているオードリーに文句のひとつでもぶつけたかったのだ。しかし彼の鬱憤は晴れなかった。それどころか事件の裏には高度な政治取引が絡んでいることを聞かされ、彼は言葉を失ってしまうのだった。



一方、リディから「バナージは最後まで君を気に掛けていた」と知らされたオードリーも、思わず表情を曇らせた。

U.C.0096

バナージ、フル・フロンタルとの接見に臨む

「袖付き」の拠点である資源衛星パラオに連行されたバナージは、休む間もなくフル・フロンタルとの接見に臨むこととなった。先ほどまで死闘を演じていた相手に対して、冷静な態度を崩さないフル・フロンタルは、自分たちが



初めてフル・フロンタルと対峙したバナージは、「赤い彗星の再来」と呼ばれる者の素顔を確かめようと、仮面を外すように頼んだ。



無礼な物言いに側近のアンジェロ・ザウバーは激昂する。だがフル・フロンタルはそれを制し、バナージの前で素顔を露わにしてみせた。



続いてフル・フロンタルは自分たちが目指すところを説き聞かせる。しかし目的のための手段として戦いを利用することも辞さない相手に、バナージは激しく反発した。

『ラプラスの箱』を欲するのは、箱の力をもってスペースノイドの自治権を確立するためだと語る。とはいえどんな理由があろうと人の命を犠牲にする行為をバナージは容認できず、ふたりの話は最後まで平行線を辿ったままだった。



ついに腹に据えかねたアンジェロがバナージを突き飛ばし、足蹴にする。苦痛に顔を歪めるバナージ。だが体の痛みよりも彼の心に突き刺さったのは「どんなに戦争を否定してもおまえも人を殺したのだ」という一言だった。

U.C.0096

バナージ、ギルボアに身柄を預けられる

会見から解放されたバナージの身柄はギルボア預かりとなり、図らずもギルボアの家族と食卓を囲むこととなった。突然の連邦関係者の登場に、ギルボアの息子はあからさまに敵意を剥き出しにする。一方のバナージもなかなか



図らずもギルボアの家族と食卓を囲むことになったバナージ。だが会話の弾みはあらず、周囲は重苦しい雰囲気になっていく。

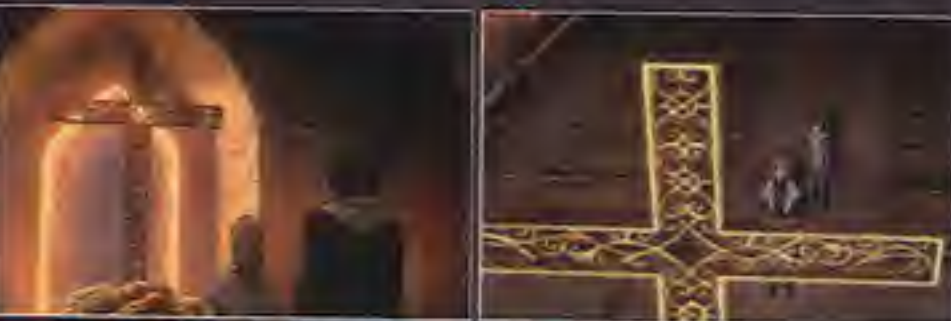


沈黙に耐えかねた少年がバナージを責め、さらに自分たちが連邦政府と連邦軍によっていかに苦しめられているかを訴えた。



するとバナージも、連邦にも戦争の犠牲になった人は大勢いると嘆き、食卓の雰囲気は一層暗いものになってしまう。

か食事が喉を通らなかった。敵対する「袖付き」の者たちも家庭を有していたこと。そんな家族の大切な人を、不可抗力とはいえ手に掛けてしまったかもしれないこと……。その事実がバナージの心を押し潰しかけていたのである。



食後、バナージを礼拝堂に連れ出したマリーダは、平穏を願う人々のために自分は戦うことをやめないと告げた。戦乱のない世界を願う人々が戦いに駆り立てられる——その事実が、バナージをさらに思い悩ませることになる。

U.C.0096

ネェル・アーガマ、戦闘宙域から離脱。

リディ、独房のオードリーと会見。一連の事件の裏に、連邦とネオ・ジオンによる高度な政治取引が関与していることを聞かされる。

バナージ、資源衛星パラオに連行される。

バナージ、フル・フロンタルとの接見に臨む。

バナージ、フル・フロンタルの論に反発し、戦闘停止を訴える。

アンジェロ、バナージの物言いに激昂する。

バナージ、ギルボア預かりの身となる。

バナージ、ギルボアの家族と夕食を共にする。

マリーダ、バナージを礼拝堂に連れ出し、自らの戦う理由を語る。

連邦軍上層部、ネェル・アーガマにパラオ攻略を命じる。

MORE INFO!

パラオ攻略戦の実情

バナージが「袖付き」に囚われていた頃、ユニコーンガンダムの強奪に危機感を覚えた連邦軍上層部は、ネェル・アーガマに対してパラオ攻略を命じた。とはいえ命令がすんなりと受け入れられたわけではない。パラオに駐留する「袖付き」の総合戦力は未知数であり、ネェル・アーガマ1艦での攻略は現実的ではない。さらにユニコーンガンダム奪回に必要なのは局地戦ではなく、広範囲に亘る破壊工作であり、そのためにはロンド・ベル全隊に招集がなくてはならない。そんな意見が乗組員の間から次々と挙がったのだ。しかし作戦を伝達するアルベルトは不満の声には耳を貸そうとしなかった。それどころか作戦を実行するのは特殊部隊エコーズであること、連邦軍本部から新型MSをはじめとする追加戦力が配備されたことを理由に、ついに作戦を強行してしまったのだ。



作戦内容を聞かされた乗組員は口々に異論を唱えるが、すべてアルベルトによって黙殺されてしまった。

乗組員とアルベルトの間に挟まれた艦長のオットー・ミタスは、憤りをぶつけられずに苦悩するしかなかった。



【百式】リック・ディアスに続いて開発が行われたため、開発中は「(デルタ)ガンダム」とも呼ばれていた。当時のMSが特殊機能を多数搭載した特化機が多かったのに対し、百式はあくまでスタンダードな機体を目指している。だが優れた汎用性が功を奏し、さまざまな戦場で戦果を挙げている。



百式
HYAKUSHIKI

エウゴとアナハイム・エレクトロニクス社によるMS開発計画「Z計画(プロジェクト)」によって開発された機体。当初は可変MS(TMS)として設計され、MSとMAの両形態で優れた機能を発揮するAMBAC(アンバック)システムが組み込まれる予定だった。しかしムーバブル・フレームの強度に問題があることが判明したことから変形機構の導入を断念。非変形型MSとして再設計されることとなった。完成した機体各部(特に脚部)にムーバブル・フレームが露出していたり、バックパックにフレキシブル・バインダーが設置されているのは変形MSとしての名残である(とはいえフレキシブル・バインダーはAMBAC肢として有効であり、百式の高い機動性を支えることとなった)。本機の最大の特徴は外部装甲に施された金色の特殊コーティングである。これはある種のプラスチック皮膜を応用したもので耐ビーム・コーティングとして機能する。もっとも百式は、高い機動性を活かした被弾率の低さを誇る機体であり、シールドも装備していないことから、この装備は不要だったかもしれない。この塗装によって戦場の百式は異彩を放ち、エウゴの中核としての立場を明確にしたのだった。また機体名に用いられた漢数字「百」は、開発主任のM.ナガノ博士が「百年後でも通用するMS」という願いを込めて付けたものである。主な搭乗者はクワトロ・バジーナ。

ヒルダ・ビダン
HILDA BIDAN

カミーユ・ビダンの母親。地球連邦軍技術中尉として材料工学を専攻しており、ガンダムMk-IIの開発やドゴス・ギアの建造に携わっていた。家庭を顧みずに研究に没頭し、カミーユとの間には希薄な母子関係しかなかったと言える。夫であるフランクリン・ビダンが愛人を囲っているのを知りながらそれを黙認したのも、自分の研究を優先したためである。しかし、研究に生きた彼女を待っていたのは悲しい運命だった。ガンダムMk-IIを強奪したカミーユに対する人質としてバスク・オムに拘束されたヒルダは、簡易カプセルで宇宙に放り出されたうえに、エウゴとの交渉材料にされたのである。そしてカミーユの目前でティターンズのジェリド・メサにカプセルを撃ち抜かれ、虚空に消えていったのだった。



【ヒルダ・ビダン】母親の責務を放棄したヒルダだけに、姿を消したカミーユを心配することはほとんどなかった。それどころか息子が犯した罪の責任を夫婦で押し付け合う始末だった。

ひ

ヒッコリー
HICKORY

北米大陸に位置する地球連邦軍基地のこと。基地としての規模は小さいがHLV離発着場を有しているため、U.C.0087頃にはカラバの施設として利用されていた。この基地ではミノフスキー粒子の影響を受けない連絡手段として伝書鳩を使用。ヒッコリーにアウドムラを先導したのはベルトーチカ・イルマで、ジャブローから転戦してきたクワトロ・バジーナたちはヒッコリーのHLVで宇宙に戻った。一方、敵部隊の迎撃に回ったカミーユ・ビダンは地球に残され、以後しばらくの間、カラバと行動を共にしている。



【ヒッコリー】連邦軍内でティターンズが勢力を拡大する最中、宇宙との架け橋となるHLV離発着場を有するヒッコリーのような基地は、エウゴ(さらにカラバ)にとって貴重な存在だった。規模は小さくとも戦略的には重要な拠点だったのである。

ヒッコリーの隊長

北米大陸に位置する地球連邦軍基地ヒッコリーを活動拠点とするカラバのスタッフ。アウドムラで飛来したカミーユ・ビダンやクワトロ・バジーナたちを宇宙に戻すため、HLVを提供してくれた。打ち上げ作業の最中、プラン・ブルターク率いる連邦軍MS部隊の襲撃を受けたものの、隊長をはじめとするカラバの奮闘によってHLVは無事打ち上げに成功している。



【ヒッコリーの隊長】敵機接近の報せに打ち上げ作業は中止されるかと思われたが、隊長は作業を強行。防衛戦に加わったカミーユと共に時間いっぱいまでHLVを守り抜いた。

ふ

ファ・ユイリイ
FA YUIRY

グリーン・ノア1に暮らしていた女の子。のちにエウゴのエースに成長したカミーユ・ビダンとは同級生の間柄であり、両親が留守がちな彼の世話を焼いていた(カミーユは迷惑がっていたようだが……)。だがカミーユがガンダムMk-II強奪に関わったことからティターンズに追われ、両親と生き別れになってしまう。その後、ブライト・ノアの手引きでグリーン・ノア1を脱出したファはバブテマス・シロッコの奇襲を受け、それを逃れるために避難したアーガマ艦内でカミーユと再会することとなる。ところが短時間の別離の間にさまざまな経験を遂げたカミーユは以前とは変わっており、事あるごとにすれ違いを感じてしまう。それでもカミーユの身を案じるファはついにエウゴに加わり、MSパイロットに志願。アーガマの補充パイロットとしてグリプス戦役に参加することとなった。もともとが普通の少女であり、お世辞にもセンスがあるとは言いが、戦況の悪化と彼女の強い意志が戦線離脱を許さず、戦乱を最後まで戦い抜いている。それと同時に戦災孤児のシンタやクムの親代わりとなり、人間的にも著しく成長した。その結果、時には衝突しつつもカミーユに従い、非情な現実に向き合う彼の心を支える存在にまでなったのである。主な搭乗機はメタス。



【ファ・ユイリイ】少女らしい繊細さを持ち続けたファにとって、グリプス戦役のもたらす悲劇は耐え難いことも多かったはずだ。そんな彼女が戦乱を戦い抜いたのはカミーユを支えるという強い意志があったためである。屈指のニュータイプとして注目されたカミーユの陰に、ごく普通の少女が寄り添っていたことを忘れてはならないだろう。

ファ・ユイリイの母
FA'S MOTHER

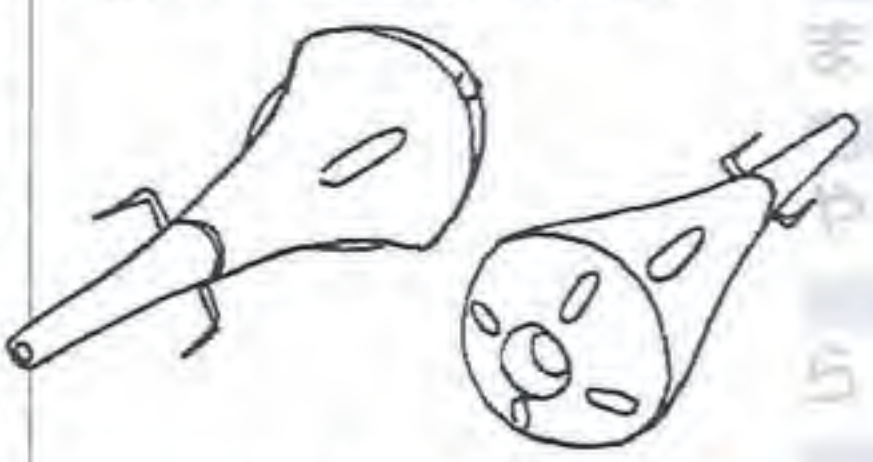
グリーン・ノア1のハイスクールに通うファ・ユイリイの母親。ティターンズによる軍事要塞化が進むグリーン・ノア1には軍関係者とその家族が多かったが、彼女は軍とは一切関係のない民間人だったらしい。だからこそガンダムMk-II強奪に関する事情聴取でティターンズに連れて行かれた時にも抵抗する術を持たなかったのである。



【ファ・ユイリイの母】エウゴの襲撃から逃れるべく、ファの母親(右)はファ(左)と共にシェルターに向かった。その後、ティターンズに捕われてしまう。

ファンネル
FUNNEL

サイコミュ・システムによって遠隔操作される無人攻撃端末の総称。一年戦争でジオン公国軍が開発した無人攻撃端末ビットと原理的には同じであり、「ファンネル型ビット」「ファンネル・ビット」と呼ばれることもあるが、単にファンネルと略するのが一般的となっている。ただし原理は同じでもビットとファンネルの間には決定的な違いがある。内蔵ジェネレーターの有無である。エネルギーCAP技術が未成熟だった一年戦争当時では小型端末に搭載できるほどのエネルギーCAPは存在せず、そのためビットは専用ジェネレーターの搭載を余儀なくされた。そのためビットのサイズは増大し、5m以上にもなったのである(それでもMSの平均サイズより小さいため、秘匿性は保たれた)。しかしグリプス戦役の頃にはMS開発技術も著しく発展し、エネルギーCAPも小型化が進んだ。



【ファンネル】ファンネルという名称はその形状に由来している。最初期にファンネルを搭載したのはアクシズ(のちのネオ・ジオン)のキュベレイだが、その形状が漏斗(ファンネル)に似ていたことからこの名が付き、一般名称になったのである。技術発展によって円筒形やフィン型のファンネルも出現したが、ファンネルという名称が廃れることはなかった。

フォー・ムラサメ
FOUR MURASAME

ムラサメ研究所で人工ニュータイプ(強化人間)の被験体となっていた少女。4番目の被験体であることから「フォー」と名付けられており、本名は不明である。また過去の記憶も失っており、研究に協力すれば記憶を取り戻してやるという約束を信じてさまざまな実験に参加した。U.C.0087.06.29、ティターンズへの協力を強要されたムラサメ研は、フォーと可変MAサイコ・ガンダムを引き渡し、以後、彼女はティターンズの指揮下に入る。そしてカラバのアウドムラを狙いニューホンコンを襲った際、ガンダムMk-IIを駆るカミーユ・ビダンから自分に近い波動を感じ取った。さらに機度かの邂逅を通してカミーユのひたむきな心に打たれたフォーは、敵味方の壁を乗り越えて彼と心を通わせるようになる。そしてカミーユを宇宙に返すためにティターンズを裏切る行動に及ぶ。その後、彼女はキリマンジャロ基地に移され、新たな強化処置を施されてサイコ・コントローラーの被験体にされる。カミーユと再会したフォーは一緒に脱出を図るが、戦場の重苦しい雰囲気と、サイコ・ガンダムに搭載されたサイコ・コントローラーの影響から戦闘を開始。カミーユの説得で再び記憶を取り戻すが、その直後ジェリド・メサの攻撃からカミーユを庇って戦死してしまう。ティターンズに利用されながらも健気に生きようとしたフォーの死は、カミーユの心に深い傷を残した。



【フォー・ムラサメ】カミーユ(右)に興味を持ったフォー(左)は、民間人の少女を装って彼と接触し、束の間の逢瀬を楽しんだ。カミーユも自分と似た雰囲気を感じ取り、ふたりは急速に惹かれ合うようになる。過去の記憶がないと嘆くフォーにとって、この逢瀬は貴重な思い出になったことだろう。

フォン・ブラウン

VON BRAUN

人類史上初の月面恒久都市であり、最大の規模と人口を誇る月の中心である。その前身はコロニー建造用の資源採掘施設であり、月面から採掘された鉱物資源をラグランジュ・ポイントに打ち上げるための拠点として利用された。そしてコロニー建設が一段落ついてからは地球とコロニーを結ぶ交通と経済の要衝となり、著しい発展を遂げることとなったのである。地球圏最大のコングロマリット企業、アナハイム・エレクトロニクス社(AE)がこの地に本社を構えているのははじめ、地球圏有数企業の多くがフォン・ブラウンに進出していることから、この都市の発展振りが見て取れるというものである。そのため「フォン・ブラウンを制する者は宇宙を制する」とまで言われ、戦乱が発生するたびにさまざまな組織がフォン・ブラウンの制圧を試みている。



【フォン・ブラウン】バブテマス・シロッコの密命を受けたサラ・ザビアロフが、アーガマの爆破工作のために潜入。そこでカミーユ・ビダンと再会し、穏やかな時間を過ごすうちに爆弾を仕掛けたことを明かす。結局、阻止できず市街地での爆発を許してしまう。

ブト

BUTO

ティターンズの巡洋艦アレキサンドリアに所属するブリッジ・オペレーター。ジャマイカン・ダニンガンの命令により、アーガマ追撃任務を遂行した。ジャマイカン戦死後はガディ・キンゼーの部下となり、アーガマ追撃だけでなくさまざまな任務に参加している。そしてコロニー・レーザを巡る決戦にも参戦したのだが、この戦いで乗艦は撃沈。彼も艦と運命を共にしたのだった。



【ブト】ムリョムソールという同僚と共にアレキサンドリアのオペレート作業を行っていたブト(右)。ちなみにオペレーター仲間では一番巨体で不器用そうに見えるが、何かと小うるさいジャマイカン(中央)の下で確実に作業をこなしていたようだ。



ブライト・ノア

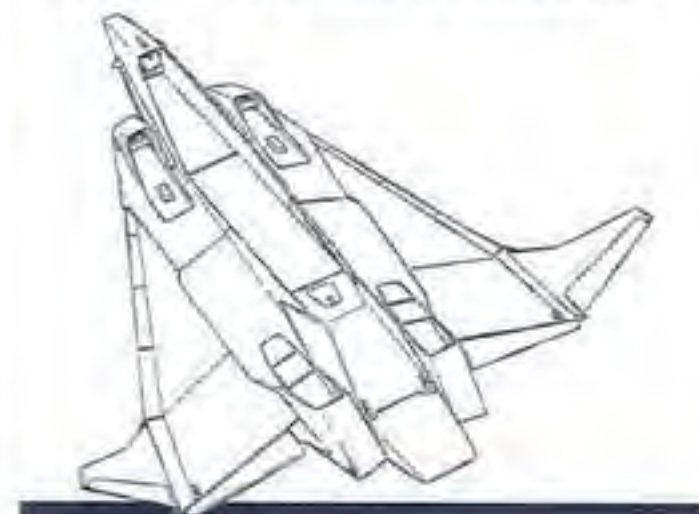
BRIGHT NOA

一年戦争終了後、ニュータイプの潜在能力を恐れた地球軍上層部はホワイトベース乗員を閑職に追いやり、その能力と影響力を封じ込めようとした。それはブライトも同様で、連絡用シャトル、テンペレーションのキャプテンに左遷させられている。だが彼は甘んじてこの職を受け入れると同時に連邦軍の動向を静観。そしてスペースノイドを武力で弾圧しようという連邦軍エリート組織ティターンズの台頭を危険視し、ついには反地球連邦組織エウゴの活動に身を投じた。そのきっかけとなった出来事がエウゴによるガンダムMk-IIの強奪事件であり、ティターンズの理不尽さをその身に味わう。また、その場に居合わせたブライトは、アムロ・レイの再来と感じた少年——カミーユ・ビダンと邂逅している。以後、アーガマの艦長となったブライトは、伝説的艦長としての才覚を遺憾なく発揮して多くの作戦に参加。最終的にティターンズ打倒を果たす。

フライング・アーマー

FLYING ARMOR

エウゴが運用したMS用大気圏突入装備。エウゴとアナハイム・エレクトロニクス社が共同で実施した新型MS開発計画「Z計画(プロジェクト)」において、Zガンダムの大気圏突入能力を検証するために開発された。外観は極薄の全翼機であり、その上にMSが寝そべる形で搭乗する。そしてその状態のまま大気圏に突入すると、発生した衝撃波の上を滑るように移動することができ、これによって空力加熱の影響を軽減することができる。またバリュートによる大気圏突入に比べると自由に移動でき、突入中に狙撃される危険性を低下させた。ジャブロー降下作戦に投入され、ガンダムMk-IIによって運用されたフライング・アーマーは優れた機能性を発揮し、その特性はZガンダムのMA形態(ウェーブ・ライダー)に受け継がれることとなった。



【フライング・アーマー】地球周回軌道から地上にMSを送り届ける本機の性能はMSの活動範囲を大幅に拡大させることとなった。しかも大気圏突入後はSFS(サブ・フライト・システム)としての運用や、水上の滑走も可能であり、生産ラインに乗らなかったのが惜しまれる装備と言える。

【ブライト・ノア】ティターンズの手から逃れるため、民間人を連れてグリーン・ノア1を脱出したブライト。船がバブテマス・シロッコのメッサーラに襲われていたところをクワトロ・バジーナに救助され、それが縁でエウゴに参加。アーガマの艦長に抜擢される。

フラウ・コバヤシ

FRAU KOBAYASHI

一年戦争終結後、地球連邦軍から離れたフラウ・ボウは同僚のハヤト・コバヤシと結婚。それと同時にカツ・ハウイン、レツ・コファン、キッカ・キタモトを養子に迎え入れた。しかし元ホワイトベース隊という肩書きから連邦政府の監視下に置かれ、窮屈な生活を送らざるを得なかった(ハヤトがカラバに参加してから、その締め付けは一層強まったらしい)。だがエウゴのジャブロー侵襲作戦をきっかけに監視を逃れたフラウは、ニホンへの脱出を決意。その途上、ハヤトの勧めでアムロ・レイの屋敷を訪ねている。しかし軍の監視下に置かれ、鬱屈した生活を送るアムロの姿に驚かされることになる。その後、カツをアムロの元に残して、フラウとレツ、キッカはニホンに向かったということである。



【フラウ・コバヤシ】かつて淡い想いを寄せていたアムロの変貌に、フラウは少なからず打ちのめされる。しかしアムロを責め立てるカツとは対照的に、彼の苦しい立場を理解したフラウは、ただ黙って涙した。

フランクリン・ビダン

FRANKLIN BIDAN

地球連邦軍の技術士官としてガンダムMk-IIの開発に携わった男性。のちにエウゴのエースパイロットとなったカミーユ・ビダンの父親でもある。とはいえ研究に没頭するあまり家庭を顧みなかったため、家族の関係は冷え切っていた。さらにマルガリータという愛人を囲っており、それも家庭内不和の要因だった。ガンダムMk-IIを強奪したカミーユに対する人質としてアレキサンドリアに連行されたが、エマ・シーンの誘いに乗りアーガマに脱走。ところがそこで目にしたリック・ディアスに興味を引かれ、バスク・オムとの取引材料として持ち逃げを図った。さらにそれをカミーユが咎めると銃を向けるなど、親としての責任よりも自分の研究を第一に考えていたようである。しかし最後には流れ弾に当たった搭乗機の爆発に巻き込まれ、そのまま爆発の閃光に消えていった。



【フランクリン・ビダン】カミーユがMSを盗み出したと聞かされても、フランクリン(奥)は顔色ひとつ変えなかった。しかも、愛人のことを考えていたのではないかと妻ヒルダ(手前)に揶揄されると、思わず手を上げる。結局、彼は自分のことしか頭になかった。

ブラン・ブルターク

BURAN BLUTARCH

ティターンズと協力体制にあるオークランドのニュータイプ研究所に所属するMSパイロット。ジャブローを脱出してケネディ宇宙港に向かったアウドムラを追撃する任に就き、北米大陸を横断した。パイロットとしての技量は確かで、カミーユ・ビダンやクワトロ・バジーナといったエウゴを代表するパイロットを相手に互角以上の戦闘を行っている。だが昔の勘を取り戻したアムロ・レイに敗れ、乗機と運命を共にしてしまった。ちなみにブラン自身は生粋の連邦軍人であり、ティターンズの台頭を快く思っていない。かつて手柄を横取りしたり、ティターンズには内密によそのニュータイプ研究所の協力を取り付けようと画策したのは、ブランの反発心の現われとも言えよう。またニュータイプや強化人間に対しても強い不信感を抱いており、強化人間のロザミア・バダムの能力を疑ってかかっていた。主な搭乗機はアッシマー。



【ブラン・ブルターク】自信家だがそれに見合った技量は有しており、さらに指揮官としても有能な面を発揮したブラン。当時の連邦軍がティターンズの言いなりであったのに対し、彼のような存在は珍しかった。

ブルネイ

BRUNEI

ティターンズが保有するサラミス改級宇宙巡洋艦の1隻。グリーン・オアシスから逃亡したアーガマをアレキサンドリアと共に追撃していたが、途中、グリーン・オアシスに引き返さざるを得なくなったバスク・オムを乗せて離脱している。



【ブルネイ】アレキサンドリア(左)からバスクを移送している最中、ブルネイ(右)はアーガマからの砲撃を受けている。

ブルネイの艦長

CAPTAIN of BRUNEI

サラミス改級宇宙巡洋艦ブルネイを預かる男性。ブルネイはティターンズ船籍だが、艦長の制服は通常の連邦軍仕様となっている。おそらく当時のティターンズは組織の拡大中で末端の人員整理が完全ではなく、彼も連邦軍から移管途中だったものと思われる。



【ブルネイの艦長】ティターンズ司令であるバスク・オム(左)を前にして、いささか緊張気味の艦長(右)。とはいえバスクを無事にグリーン・ノア1(グリップス)に送り届けるという任務を果たした。

MS-06 ZAKU

INTERVIEW
インタビューGOODS
グッズEVENT
イベント

ZAKU TOFU

GOODS

相模屋食料

MS-06 ザクとうふ

ザクの頭部をイメージした、枝豆風味のおとうふ

プラモデル、フィギュア、カード、アパレルなど、多岐に亘るガンダムグッズ業界に、新たな衝撃を与える商品が“出撃”した。2012年3月28日に発売が開始された「MS-06 ザクとうふ」である。とうふや厚揚げ、油揚げを主力とする食品メーカー「相模屋食料」が開発した本商品は、MS-06ザクの頭部を忠実に再現した容器にとうふを充填。さらに、枝豆風味のとうふ自体も緑色で、容器から出した状態でもザクとひとめでわかる仕様となった。さらに、数量限定ではあるが、ザクの武装をスプーンで再現した「ヒート・ホーク・スプーン」が付属。細かなところからも『ガンダム』への愛情が感じられる。

ザクとうふは、『ガンダム』シリーズの大ファンという社長自らが企画・立案した商品であり、容器の形状や包装用の袋、さらに梱包する段ボールのデザインに至るまで、ガンダムファンに喜んでもらえる仕掛

けが多々詰め込まれている。また、宣伝戦略の面においても、相模屋食料内にザクとうふの特設ページ(<http://sagamiya-kk.co.jp/zaku/film.php>)を開設。ジオン公国軍の「開発ファイル」をイメージしたデザインとなっている。その特設ページ内で視聴できる「映像資料」と題されたプロモーションビデオには、『機動戦士ガンダム』本編でもナレーションを務めた永井一郎氏を起用。ザクとうふがスペース・コロニーに侵入するシーンや、MSのスペック風に商品を紹介するシーンなど、ファンなら必見の内容となった。

ザクとうふは、爆発的な売上を記録。ヒート・ホーク・スプーンの出荷は終了したものの、商品は現在も売上を伸ばし続けているという。工場もフル回転で動いており、公国軍の主力として量産されたザクの名に相応しい商品と言えるだろう。

MORE INFO!

ジオン公国軍 開発ファイル
MS-06 ZAKU TOFU

ザクとうふの宣伝用に開設された特集ページ。公国軍の開発資料を模したページ構成となっている。コンテンツとしては、開発コンセプトを綴った「開発主旨」や、ザクとうふの商品概要を掲載する「兵器概要」、さらにプロモーション用のビデオ「映像資料」などが存在する。



トップページの閲覧には、公国軍で将校以上の階級であることが求められるなど、凝った作りとなっている。

商品紹介

ザクとうふ(包装時)

「濃厚！枝豆風味」の文字と、筆字フォントで書かれた商品名に惹き付けられる包装。袋は透明となっており、容器本体のモノアイが確認できる。



SPEC

機体名称	ザクとうふ
全高	52mm
重量	200g
品種	枝豆風味とうふ
主原料	大豆(遺伝子組み換えでない)
収納形態	要冷蔵
食シーン	水陸両用
追加パーツ	Soysauce Katsubushi

▲ ヒート・ホーク・スプーン

※限定数量に達したため終了。

商品DATA

発売 2012年3月28日より
取扱店にて順次発売
価格 オープン価格
重量 200g
発売元 相模屋食料株式会社

ジオラマレシピ紹介

ザクの森林サラダ

ザクとうふに、きゅうりやプチトマト、ラーディッシュなど野菜を添えたサラダ。ジャブロー攻略戦を彷彿とさせる。



ザクの宇宙やつこ

宇宙をイメージしたジオラマ風のレシピ。黒豆と焼き豆腐でベースを構築するなど、豆づくしの一品である。



生産工場

ザクとうふの量産は、群馬県前橋市にある相模屋食料の工場で行われている。容器へのとうふ充填から加熱・冷却、包装、梱包までスムーズに進められていく。ここから全国の取扱店に輸送される。



1 入口

生産工場入口。ザクとうふの宣伝ポスターやプロモーションビデオが流れている。



2 とうふ充填

まずは液体のとうふを、2列に並べられたザクとうふの容器内に次々と充填していく。



3 フィルム貼り付け

とうふの充填時に発生する泡を取り除いた後、公国軍のマーク付きフィルムを貼り付け、密閉する。



4 加熱・冷却

容器に詰められ、フィルムで密閉されたとうふを加熱し、固形化する。その後、冷却プールへと投入し、熱を取り除いていく。



5 モノアイ貼り付け

冷却プールによって冷やされた容器から水を綺麗に拭き取る。続いて容器にモノアイのデブを貼り付ける。これは手作業だ。



6 包装

モノアイの貼り付けが完了すると、容器は綺麗に並べられ、包装作業に移る。容器を袋が包むのは一瞬の出来事である。



7 梱包

包装された商品は、作業員の手によって段ボールに詰められ、梱包される。段ボールにもザクの設定画が使われている様子。



MS・キャラクター・ヒストリー 全ガンダムシリーズの完全記録

THE OFFICIAL

週刊 ガンダム パーフェクト・ファイル

GUNDAM

PERFECT FILE

定価 590円
2012/8/7

44

今週のMS①
XXG-01D2 GUNDAM DEATHSCYTHE HELL EW VERSION

MECHANIC FILE
ガンダムデスサイズヘル(EW版)
ビルゴ/ビルゴII
ザンジバル トリロバイト
ガンダム4号機 ガンダム5号機
ガンダム6号機

PERSONAL PROFILE
デュオ・マックスウェル
ブリベンターの人々
フラウ・ボウ
ホワイトベースの乗員



デュオ・マックスウェル



U.C.の艦艇

トリーズ失脚とOZの分裂
U.C.の艦艇/マリーメアの反乱

A.C.TIMELINE

OZの台頭と新たな戦乱

GLOSSARY

『機動戦士Zガンダム』用語集

DeAGOSTINI deagostini.jp

第44号

定価 590円
(税込)

7月24日(火) 発売

※地域によって発売日が異なる場合があります。



フラウ・ボウ



ガンダム4号機 他

お買い忘れなく安心! 発売日をメールでお知らせします!

ご登録ください

発売日 お知らせメール

PC用 <http://deagostini.jp/oshirase/gpf/>

携帯用 <http://deagostini.jp/gpf/>

携帯用QRコード



COMING NEXT ISSUE..

《次号予告》

LINE UP

第44号 ラインナップ

MECHANIC FILE

メカニックファイル

ガンダムデスサイズヘル(EW版)

ビルゴ/ビルゴII

ザンジバル

トリロバイト

ガンダム4号機/ガンダム5号機/ガンダム6号機

PERSONAL PROFILE

パーソナルプロフィール

デュオ・マックスウェル

ブリベンターの人々(レディ・アン 他)

フラウ・ボウ

ホワイトベースの乗員

WORLD GUIDE

ワールドガイド

トリーズの暗躍とOZの分裂

U.C.の艦艇

マリーメアの反乱

A.C.TIMELINE

アフター・コロニー年表

OZの台頭と新たな戦乱

GLOSSARY

ガンダム用語辞典

『機動戦士Zガンダム』用語集

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』特製リングバイnderの利用方法



1 週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』を各ページごとに、ていねいに切り離します。



2 ディバイダーを使って6つの章に分類し、各ページをファイルナンバーにしたがってファイリングします。



3 毎号同じようにして、全ての章をファイリングしていきましょう。



4 全号集めると、ガンダムのことがすべてわかる、ビジュアル大百科になります。

切り離した表紙を大切に保管できる、表紙用ポケットファイル発売中!!

当社通販にて発売中!



デザインは3種類。詳しくは、デアゴスティーニセレクト通販サイトをご覧ください。

<http://deagostini.jp/select/>

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』全員プレゼントの応募券です。切り取って専用応募ハガキに貼り付けて、ご応募下さい。詳しくは定期購読用のお知らせ用紙をご覧ください。



応募券 GPF-W 43

THE OFFICIAL

週刊 ガンダム パーフェクト・ファイル

週刊 ガンダム パーフェクト・ファイル

No.43

GUNDAM

PERFECT FILE

43

MECHANIC FILE

ギラ・ズール
『袖付き』のMS①
マゼラン
サラミス
カオスガンダム
プロトセイバーガンダム

PERSONAL PROFILE

ガンシエル隊隊員
ルナツの地球連邦軍士官
アスラン・ザラ
スティング・オークレー
アウル・ニード

WORLD GUIDE

パラオ攻略戦
ヘブズベース攻略作戦「ラグナロク」
ルナツ

U.C. TIMELINE

フル・フロンタルとの接見

GLOSSARY

『機動戦士Zガンダム』用語集

GUNDAM TOPICS

相模屋食料 MS-06 ザクとうふ

今週のMS①
AMS-129 GEARA-ZULU



シエル隊隊員



ルナツ

©創通・サンライズ
©創通・サンライズ・MBS

2012年7月31日発行（毎週火曜日発行）通巻43号 発行人：小川原和世 編集人：クロス中山慶子
発行所：〒104-6205 東京都中央区晴海1-8-12 トリントオアシスタワーZ 株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
書店専用注文センターTEL:03-5212-5311（月～金9:30～17:30土日祝日を除く）FAX:03-5212-5312 書店専用注文WEBサイト<http://dbooks.net/>



4910205650725
00562

雑誌 20565-7/31 通巻 43号
L-2017/3/1 2012年7月31日発行

発行所—デアゴスティーニ 定価 590 円
本体 562 円